5861
2144
no.11

MAJO :LA SEMANTO: 1922

種蒔く人

行動と批判

第二年 第二巻 第八號

大正十年十二月一日 第三種郵便物認可
大正十一年四月廿八日 印刷納本
大正十一年五月一日發行 (毎月一回一日發行)

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

◇五月號◇

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嘗て人間は神を造つた。今や人間は神を殺した。造られたものゝ運命は知るべきである。

現代に神はゐない。しかも神の變形はいたるところに充滿する。神は殺されるべきである。殺すものは僕たちである。是認するものは敵である。二つの陣營が相對する。この狀態の續く限り、人間は人間の敵である。その間に妥協の道はない。終りか否かである。眞理か否かである。

眞理は絕對的である。故に僕たちは他人のいはない眞理をいふ。人間は人間に對して狼である。國土と人種とはその問ふところでない。眞理の光の下に結合と分離とが生ずる。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇――世界の同志と共に！

種蒔き社

種蒔く人五月號目次

勞働祭と巡査（題言）……

メーデーと無產階級（社論）……

說明出來ざる事實（小說）……小川未明

ある機械（小說）……細井和喜藏

悲慘なる存在（詩）……赤松正俊

彼の死（小說）……今野賢三

瘦せて蒼白い顏をした夫（小說）……金子洋文

府中の小組合動く（評論）……ペコリンスキー

陶器や天鵞絨はその後（評論）……原田邦三

番犬（野外劇）……赤帶

□批評――帝劇の改作問題（弘二）「第四階級の文學」に就いての感想（亮）讀んだ詩から（小牧）「赭土に芽ぐむもの」（亮）「處女地」の創刊（光造）映畫「心の眼」（賢三）

□世界――ナンセン會見記――子供の國際的敎育――新神聖同盟の活躍――無政府主義者の抗議――古馴染

□地方欄――婦人欄――生活――聾人――靜動

□社會主義講座　□エスペラント講座

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勞働者と巡査

メーデーと無産階級

メーデーが來た。この日は、國境によりてひきはなされ、種族によりてひきはなされてゐる萬國の無産者が、これ等の區別を撤して、同じ目的のために祝ふべき祭日だ。勿論平素から僕たち無産階級の同志の目的は一つしかない。しかしそれは支配階級の銃劍によりてひき離されてゐる。この差別を撤して、萬國の勞働者が、その完全なインタナショナルの精神と威力とを示す唯一の日がメーデーだ。

ブルジョアには、眞のインタナショナルがない。彼等は國內に支配者として被支配階級を抑壓してゐる如く、國際的にも征服國家と被征服國家とにわかれて對立してゐる。憎惡の眼を光らし侵略の牙をむきながら對立してゐる。戰勝國の誇の蔭には、戰敗國の屈辱がひそみ、平和の鳩は累々たる同胞の死屍の上にのみ姿をあらはす。彼等は口に國際的辭令を弄し懷に劍をかくしてゐる。右手で握手しながら、血だらけの左手に銃をにぎつてゐる。これがブルジョア國際主義の正體だ。

この對立の中からにじみ出す威力、

ムだ。イギリスのブルジョアとドイツのブルジョアとは睨みあつてゐる。アメリカの資本家と日本の資本家とは互にすきをねらひあつてゐる。

この威力を彼等の前に示す唯一の日がメーデーだ。

併し僕たちがメーデーを祝ふのは、ブルジョアが平和祭を祝ふやうなお祭り騷ぎであつてはならない。無産階級の唯一の目的は萬國の無産階級の協力によりてのみ成就されるのだから、平素國境を隔てゝゐる世界の勞働者は、この目的の實現に向つて各々その分擔する任務をはたさなければならない。それは無産階級の戰線を一步々々敵陣へ近づけることだ。階級鬪爭も普通の戰爭と同じく攻勢をとるものが勝利者となる。無論一進一退は免れない、戰略と戰術を無視する運動は常に破れるけれども、全體として無産階級の戰線は常にブルジョアの陣營に進まなければならない。さうでなければ僕たちは世界の兄弟に顏が合せられない。

かつてアメリカの兄弟は八時間勞働を要求してたつた。そしてメーデーを合圖に素志を貫徹した。メーデーは無産階級の前進運動を記しづける里程標でなければならない。勞働運動の一里塚でなければならない。一昨年のメーデーよりも昨年のメーデーを、昨年のメーデーよりも今年のメーデーを盛大にしなければならない。けれどもその盛大は五月一日だけのお祭騷ぎであつてはならない。過去一年間の難戰惡鬪の結晶のみがメーデーを盛大にすることができる。そして來る一年の飛躍を準備することができる。

日本の勞働者はまだ八時間勞働さへも獲得してをらぬ。勞働組合も極めて幼稚だ。また勞働階級の利害を代表する中心機關をもたない。黃色白色の指導者のために勞働運動の精神は犧牲にされんとしてゐる。そこで勞働者の第一に解決すべき問題は全國にわたる整然たる組織でなければならない。組織なくして運動はできない。無産階級の全國的組織へ！これが勞働運動を現在の危機から救ふ唯一の道だ。全國の無産階級を背景とする運動にしてはじめて威力がある。

各國の無産階級は、その國の資本主義の發達の程度と、政府の自由政策と反動政策との如何により、その境遇は一定し

東167811
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐない。けれどもその目的は一つしかあり得ない。資本制度の絶滅、賃銀鐵鎖よりの解放、それ以外に無産階級の目的はあり得ない。

メーデーが來た。萬國の無産者共通の唯一の祭日メーデーが來た。僕たちの目的、僕たちの進むべき道、それは一つしかない。萬國の無産者團結せよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

説明出來ざる事實

小川未明

女は心から、この男を賴ることが出來なかつた。たゞ、子供か可愛いばかりに、そして子供が大きくなつたらばといふことを唯一の樂しみに、いつしよになつてゐたのです。

「殺してしまふぞ！」

男は、急に大きな聲を出して、乳飮兒に向つて言ひました。

この男は、疑ひ深かつたから、もしや、この子供は、自分の子供ではないのでなからうかと思つたのです。さう思ふと、子供が憎らしくてたまらなかつた。自分のものでもないものを、自分のものだと信じてかうしてゐることはなんといふ愚かなことかと考へると、いつそ殺してしまひたかつたのです。

けれど、小供は、少しも怖しいとは思はなかつた。この險惡な顏付をした男をどう思つて見たのであらう。水のやうに、淸らかに、なんの暗い影もなくぱつちりと開けた瞳の中に、男の姿を映しながら、さも面白いものを見たやうに、聲を立て、けた〳〵と笑つてゐました。

「ホラご覽なさい、何も知らんで、こんなに笑つてゐるぢやありませんか」

女は思つた。男といふものは、こんなに疑ひ深いものだらうかしかしら、たとへどんな男でも、自分に似た子供を見た

なら、そして無邪氣に笑つてゐる子供を見たなら、こんなことは言へない筈だ。そして、こんなことを考へるのは、果して正しいことだらうか。いくら思想は自由だとしても疑つていゝことだらうか。なんといふ怖しいことだらう。

しかし、女は、同時に、無邪氣に笑つてゐる子供の顏を見ると、何もかも忘れてしまひました。どんな鬼のやうな人間でも、この子供が殺されるものかと思つたのです。

「お前が可愛ばかりに、こんな人と、今日までいつしよになつてゐるのだよ」と、女は、子供に頰摺りをして言ひました。

「何、可愛から、疑ふんぢやないか」と、男は叫びました。

「可愛かつたら、そんな邪慳なことが言へないぢやありませんか」と、女は、言ひました。

「あんまり可愛から、ほんたうに、自分の子供かと思ふのだよ。安心して可愛がることが出來るかといふ氣になるのだよ」

「よしんば、誰の子供だつて、子供に罪はないぢやありませんか。もしこの子が他の人の子だつたら、あなたは、ほんたうに殺す氣なの?」と、女は、言ひました。

「あ、殺してしまふだらう」

「こんなに、笑つてゐるのを?」

「憎らしくなるにちがひない」

「まあ、怖しい人だこと!」

女は、それを男が、ほんたうに、心から言つてゐるのかと疑つたのです。もし、自分であつたら、誰の子だつて可愛いにちがひないだらう。そして、どんなことがあつたつて殺す氣にはなれないだらうと思ひました。

男は、職を失ひました。そして、明日から生活が不安になりました。すると、なにかに付けていらいらしました。なん

でも傍にあるものは、叩き壞してしまひたい氣持になりました。

「何をそんなに、當りちらしなさるのですか。私達は、あなたが、職の見付かるまで不自由をしていけばいゝのです。そのうちに、またいゝこともありませうから……」と、女は、男をなだめて言ひました。

「何、職の見付かるまで? いゝ氣なものだ。飽迄、俺に頼縋らうといふのか。蟲のいゝことをいふな。職なんかなんで見付かるものか。もし、永久に、俺の職が見付からなかつたら、お前は、いつたいどうするつもりなのだ。頼ることを考へずに、自分でも働いたがいゝぢやないか」と、男は、怒つて言ひました。

女は、下を向いて、默つて聞いてゐましたが、眼許をしめらしてゐました。

「ご覽なさい。何も知らんで赤ちやんは、笑つてゐますよ」

「うるさい」

「ほんたうに、この子供さへなかつたら、妾は、働きますのに」と、女は、しみ〴〵と言つた。

「ホラ、お父ちやんをご覽なさい」と、女は、言つて、子供を男の方に差し向けた。

男の感情は、こんなことでは、和らがなかつた。

「うるさい、殺してしまふぞ!」

男は、白眼を出して、怖しい顏で睨んだ。子供には、この顏がどんなに見えたのだらう。白い齒を出して、喜んで笑つてゐました。

女は、子供の無邪氣さに、その美しい神のやうな心に、男が恥ぢるだらうと思つた。さうだ。ほんたうに、神といふものが、この宇宙に存在するものなら、それは、こんな子供であらうと思ひました

しかし、男には、そんな恥づる色も、またそれがために、和はらぐ氣はひも少しも見えなかつた。

女は、何といふ不人情な男だらうと思ひました。末には、自分達は、どんなになるだらうかと案じられました。何となく、心もとない氣持がしたのです。けれど、女は、まだ窶れてはゐなかつた。顏色も活々として、手も體も肥つてゐたか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら、乳も充分に出たのでありました。

「ごんな不人情な人だつて、この可愛い子供にかゝつては仕方があるまい」と、女は、思ひました。女は、限りない、子供の無邪氣さと、少しの邪念の影もとゞめない子供の美を、その力を考へずにはゐられなかつたのです。

男は仕事をしてゐる。

その傍で子供が泣いてゐたのです。子供の眼は、さびしさでいつぱいでありました。何ものをか求めてゐます。それが與へられない悲しさに泣いてゐました。

「やかましい、死んでしまへ！」と、男は、不意に子供の方を振向いて怒鳴りました。子供は、求めてゐたものを與へられたやうに、泣き止んで、男の顔を見て、けた〳〵と笑ひました。そして、もう、いまゝで泣いてゐた自分を忘れてしまつたやうに、喜ばしさうでありました。

しかし、男は、まだ悪意ある眼付をもつて、子供を睨んでゐました。自分も曾て、子供であつたといふことは忘れて、なんといふ子供は我儘なものだらう。無智といふことが、可愛いといふなら、可愛いといふことは、實にくだらないものだ。

子供は、ごう思つたか、しく〳〵と泣き出しました。

「あなたは、狂人ですね」と、女は、男に向つて言つた。

それから、子供は、男の顔を見るのを怖しがつたのです。

子供は、弱々しく、痩せてゐました。低い窓からは、青い空が覗いてゐました。子供は何かセルロイドで造つた玩具を持つて遊んでゐました。女は、ヒステリーにかゝつて、もとの肥つた、紅い血色は無くなつて、頬骨は突出し、鼻は尖つて見えました。

ある時、男は、なんで自分は、こんな厭な家庭に生活しなければならないかと疑つたのです。女が、この家庭において

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐることも男は知つてゐました。それだのに、なぜ二人は、いつまでもかうして、いつしよになつてゐなければならぬかと考へたのです。

「なんで妾だつてゐたいものですか。この子供があるばかりですよ」と、女は、男と言ひ争つた末に言ひました。

男は、毒々しさうな眼付で、子供を睨み付けました。

「死んでしまへ」

其の言葉は、毒の針のやうに、子供の心臓を刺したと見えて、小供は、火の付いたやうに泣き出しました。弱々しさうな、青い顔をすき透る露のやうな涙が連なつて落ちました。

もはや、何を見ても、たゞ自分をあやしてくれる、面白いものと見た、子供の魔術は、失はれてゐました。

女は、叱られた時に笑つてゐた子供と、かうして泣く子供と眼に描いて、ごちらが、いぢらしいかを思つてゐるのでした。

「小供が何を知つてゐます。あなたは、何といふ残忍な方ですか」と、女は、男に喰つてかゝつた。

「ほんたうに、死んだらごうしますか？」と、女は、奇蹟といふことを考へた。

「なにそんなことがあるものか。そんなことを考へるのは迷信だ」と、男は、心に思つてゐました。

子供は、明る日の晝頃、急性腸カタルに罹つて死にました。

男は、死んでしまへと言つたことを思ひ出して、子供の死は偶然だと考へましたが、女は其の日から狂ひはじめました。

「誰が妾の可愛い子供を殺したのだ。この怨みを晴らしてやる」

女は、剃刀を持つて、男を追ひ廻はしたことがありました。

「誰が、自分の可愛い子供を殺すものがあらう？」と、世間の人々は口々に言ひました。そして、女のヒステリーを忌はしいものに思ひ、みんなは男に同情をしたのです。

（一九二一・三作）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る機械

細井和喜藏

昨日まで調子よく廻はつてゐたウォータア・マングルが、どこの工合ひかまた狂ひ出しました。

此の機械は、左右二本の柱から成る頑丈なベットに、直徑三呎もある圖太いロォラアが、三本縦列して取り付き、それを廻はすのに是れ亦素敵に巨きな齒車がありあます。其の巨きな齒車が、直徑が人間の身長ほどもあつて、アームは股たぶらより太く、ピッチは三吋もあるのです。驚く可き巨大な齒車です。回轉する音つたらありません。思はず足が竦んでしまひます。高く積みあげられた、分厚い煉瓦の外部から是れを聽く時、ライオンの唸りよりも怖ろしく聞こえます。全速度で運轉してゐる夜業の折などに、一丁も隔つた處で佇ち停まると、恰も地震の搖り返しのやうな地響きがしてゐます。

此の機械は、黒い袴の少女達が織り上げた布を、ロォラアに咬ませて壓し潰し、布の表面を滑かにして光澤を出す機械です。力織機で織り上げた布を廣大鏡で檢ると、其の經絲と緯絲の交叉された態が、宛ら莚の如く荒つぽく醜くありますが、一度此のウォータア・マングルに掛けると、アート・ペエパみたいに美しく滑かにならされます。

あの時のことを思ひ出すと、身顫ひし寒氣を催します。あれ以來、私の多少の幸福も、全く葬られてしまつたのです。何んといふ怖ろしい、忌はしい出來事でせう。私は、怪物のやうな、ウォータア・マングルを、呪咀はないではゐられません。

一體、何所の誰人が、何時の頃あんな怖ろしい物を拵えたのでせう。拵えねばならぬ必要が、果してあつたでせうか？「發明史」といふやうな本を調べれば、屹度ウォータア・マングルを發明した人の名前を載せて居るでせう。私は其の人

を怨みます。恨まないではゐられません。あんな機械を發明さえしてくれなかつたら、十年以前の私も、今日の私も、些こも變はらないのです。噫！あの憎む可き機械は、多くも無い私の幸福を、奪つてしまひました。

併し、こんな愚痴をこぼしてみたつて仕方がありません。機械は「機械こは、運動を制限し、天然勢力をして一定の仕事を爲さしむる裝置にして、抵抗性を有する物體の、組み合はせなり。」てふ定義に基づき、鐵や革や木の組んだ、魂の無い無生物なんですから。鑄物や材木を相手どつて、文句言つてみたこころで、野暮な話し、矢つ張り是れを拵えた、創造者が悪いと考えるより、心の持ちやうがない譯です。憎たらしき發明家よ！私は、發明家こは人道の、平和の幸福の叛逆者だこ言ひます。發明家なかりせば、私等のやうな第四階級の發生もなく、人類は斯程まで不幸に陷らなかつたであらうにと思ひます。殊に、凡ての作業機械の原動機となる、スチイム・エンヂンやタアビン、ダイナモなどを發明した者こそ、一倍罪を負はせなければなりません。原動機さえなければ、リチヤアド・アークライトが紡績機械を作つても、大丈夫、運轉する氣遣ひはなくて濟んだでせうし、其の他凡ゆる作業機械は、是れを發明する人が現はれなかつたに相違ありません。

私は、ぢいつと左の手を凝視めます。さうすると、何だか遠い〳〵不幸の國へ伴れて行かれるやうな心持ちになつて、泣き度いやうな悲しさが、胸のあたりから込みあがつて來るのを覺えます。……悲しみは交流電氣の如きダイヤグラムこなつて、始め低く漸次高く、最高頂よりまた漸次低く下がつてゆきます。さうした一循環の悲しみのポーズが經ぎるこ、今度は怒りのダイヤグラムが、前こ同じやうな形ちに畫かれます。最初低く中で高く、終りに元の低さに復す。その怒りのポーズが濟むこ、三度悲しみの線圖が、無窮に進展する宇宙の空間に向かつて畫かれるのです。若し萬物を支配する神が、宇宙のごこかに在るとするなれば、其の神の玉座から人間の頭に向けて一本の線が引かれて居り、如何に數奇な運命も、奔放な生活を爲る者も、結局は其のラインより、多少いりくりするくらゐなもので、線を中心として空間に、悲怒のダイヤグラムをつくつて行くに過ぎないでせう。少くとも私等第四階級はですよ、喜樂などには、あんまり縁遠いです。

私の腕はありません。肩の部分から切れてまるつきり無いのです。袂がダラリと垂れ下がつて、見つともないつたらありません。私が十五六で、まだ「バンドル掛け」といふ少年勞働者だつた頃、工場の風呂番が片手無しの不具者でした。私等は五六人の仲間と一緒に、

「風呂番の手無し
　それでも嫁別嬪
　一ト晩貸せや……」

と歌つて得意になつたものでした。今考へると、隨分非道いことを言つたものだと後悔します。

それはもう一ト昔、十年も以前の話しですが、梳棉機といふ輪轉機のやうな機械が、高速度で廻はつて居りました。大體紡績機械は多くロオラアを用ひてゐますが、其機械も表面針の莚から成る二個の大圓筒が、間隙僅か一千分の何吋てふ、密接した位置に取り付かつて居りました。風呂番の手無しがまだ不具でなかつた時、五千餘人も居る女工の裡で、織姫とさえうたはれた工場一の評判娘に戀して、想ひ成らなかつた口惜しさに、梳棉機で自殺を企てたのです。熱烈な戀です。ところが拍子よく、腕を一本引つ搔き捲つた丈けで、體は別條なかつたのです。此の生命懸けての戀に感動して、工場一の美女織姫が決心して、片輪の嫁になつたのです。全く作り話しのやうなローマンスですが、事實なのです。とにかく風呂番の、手無しのかみさんは美人でした。

まだ其の他にも、いろんな工場で負傷した片輪がありましたが、どの人も餘り見いゝものではありませんでした。工場で犧牲になつた氣の毒な、同情せねばならぬ人々であるのに、さうした不具者達は少年私の眼に同情どころか或る反感をさえ起こさせるのでした。おそらく、是れは私許りではなく、凡ての、不具者ならざる者に共通な心理でせう。

動物の片輪は、草木や器物などの片輪に較べて全く醜いではありませんか。それは動物が、自然から與えられた體の一部分を缺損することが、草木や器物の、一部分の缺損よりか不自然なからです。

風呂番の片手無しを餘所事として冷やかした數年の後には、私にお鉢が廻はつて來たのです。醜い同情されぬ、寧ろ世

間から邪魔物扱ひにされねばならぬ、片輪に自分がなつてしまひました。

併し風呂番の手無しのやうに、片手を落としても戀した女が得られるなら、まだしもですが、私のは風呂番の場合と全然正反對な行き方になつたのですから。より一層みじめであり、機械を作り出した文明を呪ふのです。私は、幸福とはどんなものだかよく存じませんが、それでも私の過去に幸福と名づけられるやうなものが多少でもあつたとすれば、戀した女と同棲したよろこびです。工場は不平に滿ち〳〵てゐました。永年忠實そのものゝやうに働いても、些とも上の奴の眼には止まらず、後から入社つた碌に仕事も出來ぬ青二才が、學校の免状の力でドシ〳〵昇進しました。十年以上も同じ工場に勤めた私が、二圓の日給は取れません。上下半期のボーナスは五十圓が關の山、しかも五十圓のボーナスのお蔭で組長てふ態のいゝ階級を授けられ、人より餘計に働かされたり、人に文句を言はされたりせねばなりませんでした。工場の門を潜つたが最後、私の體は私の所有ではなく、怖ろしく不合理な權力の手脚として、人格を變換せねばなりませんでした。其所では、自由だとか、個性だとかいつたものは絶對に必要がなく、反つて大層邪魔になるのでした。凡ゆる人間を標準化して、其の勞働は機械的動作でした。かくして萬人を同一の鑄型に嵌めてしまはねば、製品の統一が缺けて、大量製産が成り立ちませんでした。

私は工場が厭でした。毎日々々泣き度い思ひで通ひました。

少しも變化のない、機械其のものゝ定義のやうな勞働に、へト〳〵に疲れた私は、讀書も運動も慰安とはなりません。といつて、將棋も好まず、浪花節や八木節を唸ることもできませんでした。また晝の不平をアルコールによつて忘れやうとする程の、卑怯な心も有ちませんでした。

私は唯一トつ殘されたる慰安として、肉を求めました。といつても、多くの女の肌を次々へと漁り歩くには、時間もなく、金もなく、良心も亦許しません。餘りにそれは弱貧過る私でした。

戀した女工と一緒になつて、其の女一人を守り立てゝゐるに過ぎません。たゞ劇烈に女の肌に近づくことを樂みとして居りました。肝心な成長期から、永い年月、冷たい不衞生な工場の、敷石の上に暮らした女は、幸ひ妊娠の可能性を缺く

やうになつてゐましたから、

私は、凡そ肉ミ名のつくものは、何でも好きでした。豚でも馬でも、牛ならなほ更らのこと、工場の歸路、最下等の切り混ぜ肉を三十錢許し買つて歸り、飯のお副食に葱ミ煮て喰つては、妻ミ早く寢ることでした。

私等の社會に新婚なんていふ言葉は一向適はしくありませんが、でも新婚當時は「幸福ミはこんなものか。」ミ思ひました。階下で火を焚くので、煙たくつて淚の出る勞働下宿の二階に、南京蟲や蚤虱の攻擊を受けて、マシン油と人間の脂で、一種形容し難い惡臭のする綿の寄つた煎餅蒲團に、野郎同志が喰つ着き合つて寢た獨身者が、同じやうな運命をたごつて女工寄宿舍に、熟しきつた女同志が、雜魚寢して居つたその一人ミ、少々戀し合つて夫婦になり、新しい寢具の上に横たはつた折には、不平も何も打ち忘れてしまひ、工場のことなご眼中に置かぬ私でした。永い事虐げられた腹いせに、こんな幸福が訪ずれてくれた。私は上役を見ても、工場長に遭つても、唯もう感謝し度いやうな氣になりました。

「今私が言つたこミ、氣にせんやうにして下さい。あんな厭なことは言ひ度くないが、上から喧しく小言が來るので、仕方なく言づたんです。」

女に、そつと人目を憚つて私語きました。私は整反部の組長でしたから、女工が疵の有る反物を誤魔化して納めたりすれば、一應召喚して、說諭せねばならぬ役目を負はされて居りました。紡織工場はよく女のできる處なのですが、そんな人を叱つたりする役目だつたので、こんと私には女工が惚れてくれません。そんなことに頓着しませんでしたが、其の女に限つて、表向き說諭した後から、言ひ譯けするのでした。私は其の女が好きだつたのです。そして將來苦樂を俱にしたいなごゝ空想してゐました。

「妾叱られてもいゝわ、度々あなたの顏が見られるから。」

女は以外なことを言ひました。私はもうすつかり女の意中が分かつたやうな氣がして、女の廻はして居る臺にぶら垂げ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られた運轉袋のなかへ、戀文を書いて入れて置きました。二三日經つと女の織つた布へ、返事の手紙が捲き込まれて整反部へやつて來ました。二人は間もなく一軒の長屋に住むやうになりました。それが私の捨てられた併し未だに忘れられぬ妻です。私がウォータア・マングルでやられて、片輪になつたものですから、妻は色男を拵えて逃げ出しました。小山の富士紡績へ行つてるこかいふ噂ですが、此の醜い擂粉木の左腕を顧るこ、悲く諦めるより詮方ありません。ウォータア・マングルの調子が損ねると、屹度取り扱ひ者が負傷します。私が覺えてからでも、是れで怪我した職工が十三人です。

其の日も常よりか調子が悪く、思ふやうに布が仕上がりませんでした。私は、螺子を弛めてロオラアこロオラアの間隙を調節し、種々と加減してゐました。もう大丈夫と思つた頃、暫らく空運轉を掛けてみ、愈よ布を咬ませるといふ瞬間です。回轉して居るロオラアの間へ長く接續した布の一端を、手で持つて行つて素早く挿むのです。私は數多のガイド・ロオラアを經た布の一端を左手で摑み、ロオラアに挿入する動作を行あうとしました。其の時流石老練な私も、どうした機みか布こ一緒に指を喰はせてしまつたのです。私はどんな風にしてやられたのか、薩張り覺えませんでした。パリパリツ……こ音がして、――多分骨の折れひしやげてゆく音でせう。氣味悪い液體か顔へ飛びかゝり、ヒヤッとしたつきりしか記憶に殘つてゐません。呀ッこ思つた刹那には既に氣絶したのでせう。氣がついて見ると、私は白いベットの上に載つかつてゐました。そうして看護婦が側で雜誌か何か讀んでゐるのでした。妙な處だこ思ふと、左の肩の邊がズキズキ痛むのです。痛みは段々劇しくなつて疼きに變はつてゆきます……。ヒョッこ見ると、先刻まで工場で仕事して居つた私の腕が、全く影も形も無いのです。けれごも意識はまだ明諒りしませんでしたから、別に驚きもせず、夢のやうに茫然りして居りました。

妻がやつて來ました。

「あんた、こんなになつてしまつて、ごうするの。本統に不自由で仕樣がないわよ。」妻は、大根でも切つたやうな腕の株たを撫でゝ泣きました。私もそれまで悲しくなつたのに、妻が感傷的な聲で忍び泣くのを聞いて、急に悲しくなりま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

した。

「私がこんな手無しになつたら、お前は愛想つかして、おつてけぼり喰はせるだらうなあ。」

妻は大聲あげて劇しく長い間泣き續けました。

「あんたは、妾がそんな薄情者だと思つてゐるのね。妾は妾は、そんなに思はれるのなら、いつそあなたのやうなつてしまつた方がいゝわよ。」

こう言つて、私の胸の上に顔すりつけ、容易に泣き止みませんでした。

「會社のお醫者では治りが遲いから、此所へ入れるやうに皆が骨折つてくれたのですよ。願書に千人阪ついて、工場長に願つたのです。」

「フウン……此所は一對どこだい。」

「まあ、あんなこと言つて。淺草の樂山堂だわよ。」

「あんまり樂にもないね。」

「呑氣な病人、でもそんなことが喋舌れるやうになつていゝわ。」

妻は毎晩見舞つてくれました。工場からは、同胞が同情金を募つて贈りました。

どこから働く力か、自からの修繕力は緩慢なやうで速かでした。一ヶ月もすると病院の内部をブラブラ歩いて見たくなりました。外科專門の此の病院には、私と等しく運命づけられた不幸な人々が多勢居りました。入院患者の約半數くらいは、くしき文明の犧牲者でした。そうして其の亦半數は私の兄弟分で、貴い體の一部を機械樣の人身御供に捧げた人でした。

「私は、造船所でクレインの下敷きになりました。」

「私は、硫酸ぶつかぶつたのです。」

「私は、電氣に感電しました。」
「私は、電車に彈ね飛ばされたのです。」
「私は汽車の連結手ですが、これで二回目の入院です。」
それらの病友は皆、輕いので腕一本くらいはやられてゐるのでした。夜々中に、血まみれた半死半生の怪我人を搬んで來ましこ。「片輪の伴れは大勢ある。私許りじやない。」私は、こんなに思つて、力強い味方ができたやうに考へるのでした。
五十年以前は、こんな怪我人が果して幾割りあつたであらうか。それを考へる時、世が文明になればなる程、貧乏人は不幸になることを何人でも考へられるでせう。
私の創口に慨いだ妻の泪は、悲しき記憶に殘るのみです。三ケ月目に退院して歸つてみれば、僅かの道具なども賣り拂つてしまはれ、妻の姿は見えませんでした。左の腕とともに、唯一こつの幸福はもぎとられました。哀れにもむごたらしい思ひ出です。

私が仕事に出るやうになると、其のウォータア・マングルで亦また一人やられました。今度は右手を咬まれたのです。私が機械の前部に佇つて、ウドンのやうにロォラアが吐き出す布を觀て居ると、布の中程が紅く染まつて、何だか薄くよれよれになつた變な物がはみ出ました。訝しく思つた私は、すぐ臺の後へ廻はつてみると驚くではありませんか、一人の同胞がロォラの處でモジャモジャしてゐるのです。「やられたなッ」といふ衝動が、私の頸から足の爪先へ傳はり、ガクンとしました。其の時にどんな工合にして外したか皆目覺えませんが、無我夢中でブウレイに掛つて居るベルトを外し、運轉を停止めました。私の胸はエンヂンのエクゾオスト程劇しい動悸がしてゐました。
「おーい、皆來た來た！」すぐ側で、フォールディング・マシンだとか、シヤアリンダ・マシンだとかいふ機械を廻はしてゐる連中を呼びました。聲に應じて七八人の仲間は、ウォータマ・マングルの側へ馳けつけましたが、孰れもボカン

こして、此の椿事の前に素早く、爲す可き手段を考える餘裕ある程の人物はありませんでした。私も狼狽えてゐました。

それに片手だものだから自由が利かず・其の同胞をロオラアの間から外し出すには、十分間以上も費しました。漸くのここで挺子やスッパナを持つて來、ロオラアをコゼ上げて腕を拔き出した時には、同胞は紫色の顔して口からは泡吹いてゐました。そうして胸の邊から、上半身一面は血糊で塗らくらし、紙のやうに薄くひしやげられた腕からは、糸みたいな長い白筋が二三本たれさがつて居りました。

私も多分そんな風になつて、やられたのでせう。

それから暫らく經つと、今度は女工が、髮の毛を一本殘らず捲りこられました。いやもう、可憫さう過ぎてお話しになりません。

「私がこんなことを申しあげるのは、寔に差し出ヶ間しい次第ですが、あのウオータア・マングルで餘りよく怪我しますから、何とか方法を構じて戴き度くあります。」

或る日、思ひ切つて私は事務所へ乘り込み、工場長に渡りました。すると工場長の言ひ分はこうなんです。

「機械は君、わざわざ人の處まで行つて、喰ひ付きやしないで。負傷するなあ本人の不注意だ。やる可からざる部分へ手など觸れるからだよ。」

此の眞理を穿つたご挨拶には、二の句が出ませんでした。工場長の理法でゆくこ、負傷は過失でなくわざとです。

私は、布の厚さより一寸でも厚い、一千分の十吋以上の厚みあるものがロオラアに觸れた場合、自動的に機械の運轉を停止させるオートマチツク・ストツピング・アツタチメントを考案してゐたのでしたが、言ふこと効なきを覺り諦めました。

そして、「若し今度工場長がウオータア・マングルの側へ、偉さうな顔してやつて來たら、ロオラアの間へ突つ込んでやらう」こ決心しました。

今朝から狂ひ出したウオータア・マングルは、血に飢えた猛獸のやうな聲をあげて、又誰かを喰あうこしてゐるやうです。あれ、向ふに工場長の姿が見えます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

悲慘なる存在

村松正俊

この假面をとれ！
この蓋ひをぬげ！
汝の帶びてゐるものは何だ
それが喜劇役者の衣裳なのか
然らば舞臺でをどれ、
世界はそれを見つめるだらう、
注視が一つの誇りだ
だが得られたものは一つの汚蔑だ
愚人の知るところは假象と實在の混雜だ！
さうしてその得意のをどりの眞意を知らない
去る日が來たのだ
芝居は過ぎた
殘るものは悲慘だ、おゝ滑稽なる悲劇よ！
むき出しの正體が敗北の象徴！
どろにまみれた裸體の貧弱！

ぼろにつゝまれた化粧の眩惑！
しかも知らないものゝ自慢が小供の玩具だ！
をどれ！　をどれ！　去つたのもよ！
汝は殘された唯一のをどり手！
だが昔時の盛名は實を失つて
ただ自惚れと自慢の一曲！
衣物は雨にたゝかれ風にふかれ
かのいかめしい「時」の試錬がそれをくだく
さうしてなほ平然として冠せる汝の醜體！
おゝ「時」よ！
救ひ主の時は舞臺の創造者！
それは生活の上に身を以つてつくる喜劇！
時代は去つた
ぼろをすてよ！
假面をぬげ！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さうして自分の眞のすがたを見よ！
良心があるならば汝はまだ救へる
救へない汝はつひに死だ！
おゝ、汝、唯一の殘された古代の役者よ！
博物館のみが汝を迎へるだらう
行け、さうすると汝の名譽は昔にかへる
そこに田舍者もゆき、外國人もゆき、小供も行つて
汝の古代の誇りを汝にかへすだらう
覺めよ！
をごりをやめよ！
珍らしき日は今や來た
汝の一行は他の町へいつた
他の町でまた新たな劇がはじまつてゐる
正氣にかへる！
夢をすてよ！
さうして汝の本隊にかへれ！

雨が降つてゐる
それを考へよ！

雨も一つの象徵だ！
夢と柳とをおくとき「時」がまた來る！
戰慄が一つの寶だ
雨ののろひをおれが聞いた
おれは雨の下にその命を見る
煙のやうに去るのが――おゝ、ニイチエ！
素人の哲學と超人の迷ひと――
それが彼の哲學だ
「權力意志！」
だがおれは一つのことを知つてゐる
おれは古典を學んだ
プラウトスは一個の作者だ！
アリストフアネースは一個の作者だ！
喜劇はかの老いくづれた役者への贈物！
意志だ！
それがどうしたといふのだ、
權力だ！
それが何をもつのだ
象徵を知れ！　そこに時代の影がある
おれは久しい間、曇りの哲學を知つてゐた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おれは今更雨の哲學を學んだ！
去るものは去る！
さうして來るものが來るであらう
汝はヴィルギリウスを讀んだか
ふん、それが一つの自慢なのだ！
影のあとを追ふなかれ
それは一つの「歎息」に外ならない
それを承認したのが生活の誤りだ
誤りはかへされるべきだ
おゝ、もとにかへれ！
正しい眞理につけ！
「認識」よ！　「認識」よ！
生の力をどこに見やうといふのか
生きてゐる力は現にある
しかも「認識」はつひにそれを知らない
その故にこそこの迷誤だ！
起つものは起て！
汝は一つの植物を知つてゐる
それはいつでも日光の方へ向つてゐる
日光こそそれの眞實なのだ

今汝の置かれてゐるこころを見よ！
「空虚」だ！
あゝものを直視するのが第一の義務だ
知らざるものを彼等に委せよ！
直視とは大膽者の一事業！
直視なき生活を唾棄せよ！
今わきあがる生活と眞理と――
それを直視せざるものは一つの罪を犯すものだ
見よ！
自働車が走る！
機械がまはる！
現代の文明はその惡を知る、その美を、その眞を
故に見よ！
古代の理想を一切地に投ぜよ！
未來はわれそのものだ
詩人が起つのだ
「哲學」とは？
「權力」とは？
あらざるこころのものに對するあへなき渴望！
夢に對して承諾する敗北のくり言！

おゝ、今や光が來た！
光がすべてをもたらしてゐる
その光の下に假面がおちる
その光の下に譃裝が裂ける
その光の下に白粉がはげる
その光の下に老の皺が現れる
その光の下に博物館の柵かくつがへる
その光の下に古代の景情が一轉する
故に去れ！
故に見よ！
汝の日は西に向いた
新しい青年が赤兒を抱いてゐる
未來は知るべきだ
蓋然は未決だ
當然は死んだ
必然は半ばだ
偶然はねがひだ
故に笑ひが喜劇の子供！
空しい希願が二つの道を求める
おゝ、笑へ！

それも象徵だ！
生活とは現實だ
現實が假面の下にあるこは一の喜劇だ
コマツクス　コマツクス　コマツクス　コマツクス……
チヨ　チヨ　チヨ　チヨ　チヨ　チヨ　チヨ……
ボボボボボボボボボボボボボボボボボボボイ……
合唱だ　合唱だ！
おゝ、聞け！

その悲慘をおれは知つてゐる
その醜い存在の下におれは生きて來た
さうしてなほ生きてゐる
それがおれにとつての苦惱でなかつたか
それがおれにこつての恥辱でなかつたか
おれは久しく哲學の迷誤のうちにゐた
おれは久しく古典ののろひの下にゐた
その故におれは若さをそれに居つた
おれの日は灰色の連續だ
目覺めたときは若さが去つてゐた

さうして醜い悔恨がおれに來た
おゝ、愚人！
おれは自らさう呼ぶ
だが去つたものはかへらない
おれは現實に目覺めた
おれはつひに戀さへ知らなかつた
それをくやむなかれ
それは一些事にすぎない
それは人生の段階の一つだ
すべての人の經るところだ
さうして愚人のいたづらになやむところだ
それを避けよ
おれの心は固く決心してゐる
求めるところはそこにない
ただおれはもつとそれの根本を見るのだ
おれの生活が悲慘な存在のうちにあることを――
存在はいやしい
だが存在はかつていやしくなかつた
また理想に於ていやしくないだらう
故に未來を求めるのだ

おれは正しくおれを見よ
その故におれの心が激動する
事實だ！
眞理と假立の二つが並列するとは喜劇だ
おれはその悲慘な喜劇の下に生きてゐた
また今日も生きてゐる
おれがおれの命を知るならば……
故におれは眞理を要求する
その要求の下におれはおれの過去を淨くする
それが生活をもとにかへすのだ
さうしてこの醜い存在が淸くなるのだ
おれは少くともそれを感ずる良心をもつ
その良心のためにおれは生活を求める
知らざるものをその思ふままに行かしめよ
欲するものをして行はしめよ
ただつひに證明が來るであらう
それをおれは握りたいのだ
その故に行爲する
その故に批判する
その故に思想する

あの故に生活する
おゝ生活とは偉大である
行爲の闘する限り偉大である
欺瞞はかの觀念の罪だ
おれはその觀念の下に灰色の日を知つてゐる
また雨の日もおれのうちに來た
だが今正しい立場に立つておれは光を求める
存在は悲慘だ
この悲慘を去るのがおれの義務だ
おれの意識はそれを命ずる
それはおれの生活をそれから救ふことだ
さうしておれが詐欺者に報ずる道だ
おれの戀愛は地に沒し去つた
その悲嘆も悲慘なる存在の一產物だ
おれの若い日の反省のないねがひさへも
またこの存在にかゝつてゐたのだ
さうして今日おれが一步も動けないのも
この悲慘なる存在のためだ
その劇的を破れ！
その桎梏を去れ！

その足かせを脫せよ！
その目かくしをすてよ！
その痲醉より覺めよ！
理想主義こは現代の惡の下にあつては一つの惡だ
人間性こは現代の惡の下にあつては一つの惡だ
「永遠」のために現在をすてる勿れ
生きることとは現在の生活だ！
それを忘れたこき最善の教訓も無だ！
故に現在が悲慘なることを止めしめよ
正しく知るものこそ眞の人間だ
惡の下にあつて「惡」の「良心」に與するなかれ
知るべきものは最後のねがいだ
おゝ、
眼をあけてこの現狀を見よ！
直視こそ第一の證明だ
直視してなほ反省せざるものを獄に投ぜよ
存在はあまりに悲慘だ
その下に生きるとは生命の汚辱だ
生活の責任だ
故に悲慘を去れ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

汝の假面ははがれるべきだ
汝のくさつた衣裝はすてられるべきだ
その新たなる生活の日になほ生きるのを恥ぢしないか
厚顏無恥だ
偉大なる喜劇はそこにない
汝のもつものは愚劣な醜い仁輪加だ
人をだまして金をとる大道やしだ
汝の力を信じない
汝ののろひを省みない
汝の外貌を認めない
汝のもつものをたたへない
汝のいふところを賞しない
今や眞理が來た
それが唯一の創造者だ
おゝ悲慘なる存在よ！
汝の救はれる時が來た
うたへ！
をどれ！
そこに未來の勝利がたゆたつてゐる
喜劇を與へ！
おゝ、眞理！
おゝ、存在！
悲慘なる存在よ、汝のあさはごこだ

之をもこにかへせ！
それが第一の要求だ
おれは正しくおれに命ずる
そこにおれの死んだ心の恢復があるだらう
またおれのそこねられた戀愛の再生があるだらう
だがそれは未だ
光はすでに現れてゐる
だが人はまだそれを直視しない
その罪をならせ
さうしてこの存在を正しくなほせ
おゝ、
わが光よ！　それが眞理だ
さうして悲慘なる存在を暗に渡せしめよ
その地上を淨清ひせよ
おゝ、
光よ！　唯一の光よ！

さうだ
假面を去れ
おれは今や見た
おれは事實を見た
おれは眞理を見た
おれは汝のいつはつた姿を信じない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼の死

今野賢三

一

彼は館主の家からぼんやり戻つて來た。　そして蒼白い顏を伏せたまゝいつものやうに樂屋に入らうとした。

舞臺裏へ拔けるところの柱に、赤いフラフが垂れ下つてゐる。

それを見て彼はひよつこりと足を止めた。廣く、汚ない場内は、古寺のやうにガランとしてゐる。

丸山清風――赤い地に白く染出してある此の文字も、だいぶ垢染んでよごれてゐる。

彼は瞬間的にその文字を見るに耐へないやうな氣持を感じた。

そのフラフも夜になれば、はなやかなる電燈の灯に映えて、血でも通つてゐるやうに、生き〳〵として見えるのだ。

が、丸山清風――垢染んだ此の文字から、今は、彼のむかしのはなやかさがこればつかしも浮出して來ない。

彼の眼には寂しさがあつた。衰えがあつた。

そして、自分の姿も、自分の心も、すつかり弱々しいものになつてしまつたことを今更に強　感じた。

舞臺裏はかなりに廣い。そして薄暗い。煤がいつぱいにたまつて黴たやうなじめ〳〵した匂を放つてゐる。それは、今のところ活動常設館となつてゐるから、芝居興業で舞臺を使ふことがめつたにないからだ。

樂屋へ這入らうとする彼の頭に、冷酷な館主の顏が浮んでゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は今日こそと、思ひ切つて給金値上げを館主にせまつたのだ。そしてすげなくはねつけられたのだ。病氣のために困つてゐることを哀願的に訴へてもとりあげられなかつたのだ。それで、しまへには憤りに燃えて館主の家を出たのだ。

しかし、劇場の入口をくゞるころは、病身な自分を情けなく思ひ描くに過ぎなかつた。

彼は、舞臺裏からつゞいてごツつきの自分の部屋へはいらうとして、二階へ通ずる梯子の下まで來ると、ふと聞えてくる二階の話聲に、思はず吸ひ付けられたやうに足を止めた。

すると、村上殘月を取りまいて、三四人の樂屋のものがあけすけな笑聲をごつとあげた。

村上の聲が一ぎわ無遠慮に、太く憎く〳〵しくひゞいた。

彼は、まるで嘲笑を浴せられたやうな氣がした。そして、針のやうに尖つた心持を壓さへながら、眼を据へて二階を仰いだ。

笑ひを含んだ話聲はたちまち低くなつた。

彼には、自分のことを影口きいてゐるのが見えるやうに感じられた。

わけもなく、嫉ましく、腹立しくなつた。

「チヨツ、いま〳〵しい！」

思はず舌打ちして、彼は自分の部屋の戸を力まかせに開いた。

二

彼の妻のうろたいた有樣といつたらなかつた。彼を仰いでいつぱいに瞬つたその眼のなかに、不安と、哀願と、警戒とをごつちやにした。

彼が何氣なく戸を開いた時には、火鉢のかたわらで金を數へてゐる妻の姿が、いつものやうに華車な素直なものに見えたのだ。が、彼がはいつて來たと氣がついてからの對度の變化は、まるで、小盜坊が警官の眼に觸れてあはてたのとそつ

くりだつた。

彼は、あまりのことにすぐには言葉も出なかつた。それでだまつたまゝ、飛び付くやうな姿勢で、妻の顔から、そのまわりへと、まんべんなく眼を配つた。

「その膝の下にかくしたのは何んだ？ 見せろ！」

彼は怒氣を含んだ聲を壓さへるやうにして、つとめておだやかにものを言はうとしたが、かへつて突つけんどんに呶鳴つてしまつた。

妻は口ごもつたまゝ、彼の顔をヒタと見つめてから、何か決心したらしく、わざと平氣をつくろつた。

「なんでもありやしないわよ」

言葉だけはかうしてするりと出たが、眼は、まともに彼を見ることが出來なかつた。

そして、てれかくしに烟管をとりあげた。

彼はいきなりをどりかゝるやうにして、妻のからだを突きのけ、その膝の下から小さなガマロをつかみ出した。

彼は突嗟にすべてを見抜いた。

彼がこれまで人知れず苦しんできた、すなはち妻に對する猜疑の正體が、此の場面にぶつかつてすつかり明るみへ顔を出した。

今まで、彼の月給のうはまへをはねて、それを内密で貯めておいて、機會があつたら逃げ出さうとしてゐたのだと、突嗟に彼はかう思つた。妻のこのハッキリとした心持を握りたいために、彼はこれまでどのくらゐ焦燥に驅られたらう！

「いつたいこの金はどうしたといふんだ？ 何故かくすんだ！ やましいことがなければ、かくす必要はないぢやないか！……貴樣は……俺が病氣だと思つて!!……」

彼の心のなかで、愛と憎しみの感情が最う一ぺんに爆發してしまつた。

彼はわれを忘れて、妻のからだがもみくちやになるほど責めつけた。髪の毛が抜けるほど引きまわした。ヒー〳〵と泣

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き聲をあげるのを、かへつて快くさへ感じた。

……しばらく經つて、ほつこ吾にかへつた彼は、膝のところにうづくまつて泣きぢやくつてゐる妻の姿を見てゐるうち、どうしたことか、たまらない空虛を感じてきた。そしてはげしい悔にも責められて、わけもなく悲しくなつてゐる自分を見出した。

そしてまた、まるで高い山を喘ぎ〳〵登つて倒れさうになつた時と同じやうな疲勞をも感じた。

――彼と妻との間は夫婦といふは名ばかりで、性的に交渉を持つことが出來なくなつてから、約半年以上になる。それで、つねにさうした苦痛から救はれようとして、彼がやつきとなると、すぐにはげしい眩暈に襲はれる。それにつゞいて吐血する。それも……病氣のために――。

彼は止むを得ず妻のからだから離れてゐなければならないのだ。

それだのに、いつでも若々しくつくろつてゐる妻の心持が、彼にはどうしても解せなかつた。白粉を濃く塗つたり、髮の結ひかたを氣にしたりしてゐるのを見ると、彼の心はいつでも反撥した。苦痛をわざと投げつけられてゐるやうな氣がした。腹が立つた。そしてまた一方の心持では、妻を、何ものにかへてもいたわらずにゐられなかつた。

彼は今、放心したやうな氣持になつてゐながらも、眼の前に泣きくづれてゐる妻の姿を、やつぱり、なにものにかへても、いたわる心持でながめなければならなかつた。

「夫婦こいふのも名はかりだから、逃げようとするのも當然なんだ。自分にはつかまへておく權利がない！」

彼のあたまにふと、こんな考へが浮んできた。

すぐそのあとから、金を盜んで逃げようとする、見下げはてた妻の根生が彼の心のなかに見えてきた。彼はまた憎しみを新にした。なさけなくなつてきた。しかし、最う彼は、そのことでまた新に妻を責める氣力が失かつた。あらゆる苦みを、涙ぐましい苦みを、ぐつと呑みこむやうな心持で妻の姿を見つめなければならなかつた。そして、一切から突き放された――とでも言はうか、一刻もじつとしてゐられない、腹の底から突きあげてくる、言ひようのない、頼りない氣持に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

引き込まれてゆくのを感じた。

何か言ひたいやうで、何も言ひない心持なのだ。彼は石のやうにだまつて、泣いてゐる妻の姿を見つめてゐるうち、意に、フラフラと倒れさうになつてしまつた。

三

それから、日暮れ頃まで、まつたく病人のやうになつて、彼は蒲團にもぐつてゐた。打込みの樂隊の音で彼はやつと蒲團から拔け出した。そしていつの間にか、枕下におかれてあつた、替り寫眞の臺本を手にした。

寫眞替りは最う明後日にせまつてゐる。一とほり臺本に眼を通して、すぐに役割をしてしまはなければならない。かたわらに妻の居ないのが、彼に氣安さを感じさせた。それでいくらか心持を臺本に集中させることが出來た。

先づ、舊劇の役割に、松之助の扮してゐる主役を彼自身がとることにして、鬼若の扮してゐる大敵き役を誰にもつてゆかうか？……と、ちよつと首をひねつた。

「吉田には、はまり役だが……しかし？」

彼は心のなかでかう呟いた。

彼は毎日舞臺に出て、臺詞をつける時だけ、自分らしい自分となることが出來るのだといふ氣持で、一切を忍耐してゐる彼自身を思つた。此の寫眞でこそ思ひきり叫ばねばならない。「村上如きに馬鹿にされてたまるものか」と彼は思つた。すると、ちよつと復讐してやれといふ輕い皮肉な心持がうごき出した。彼は娘形專門のところへ、長正の扮してゐる娘役のほかに、大敵きをふりあてゝしまつた。

役割が了つてから、うしろぐらい氣持を感じないこともなかつたが、「なァにうつちやらかしておけ、役割は主任辯士の權利ですることだ」と、自分自身に呟いて、そのまゝ臺本を村上のところへまわしてやつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四

芝居を打つ時は、役者の下廻りをつめ込む二階の大部屋を、三つばかりにしきつて、今では辯士たちが裏長屋のやうにして住つてゐる。しかし、部屋といふのは名ばかりで、屋根裏に巣喰つてゐるといつた方があたつてゐる。

村上は細い女の聲など出すに似合はない、大きな圖體をして、そのうちの一つの部屋に夫婦でおさまつてゐるのだ。

今、丸山からまわされた臺本を手にして、役割と見比べてゐたが、

「ふむ！　いよ〳〵やりやがつたな」

と、これはまた良人に似合はない、干乾びたやうに痩せてゐる若い妻君の前へ、その役割を突き出した。

ちよつと覗いた妻君は、

「馬鹿にしてるわね。あんた！　ほんたうに馬鹿にしてるわ！」

わざと、あたりに聞えるやうな聲でわめいた。

けれども、村上はすぐに腹の中で笑つた。「自分の手段にいよ〳〵乘つたな」と思つた。村上が、さういふキツカケを彼にこしらへさせるため、それとなく、針でつッ突くやうに仕向けた皮肉が、同じ皮肉なかたちでもどつてきた。

村上がこの樂屋にころげこんでからまだ半年と經つてゐない。けれども、今では、他の辯士たちは言ふまでもなく、出方のものや、女給下足番にいたるまで自分の手に入れて、「村上さん〳〵」と主任同樣の尊敬を持つて呼ばせてゐる。それといふのも、なにかにつけて金錢上の恩惠をあたへておくからである。それだから村上は、樂屋内はいふまでもなく、此の劇場内のすべての空氣が、最うすつかり丸山に飽いて、自分に傾いてゐるのを思ふと、主任の椅子をひつくりかへすのは今だ――と思はないわけにはいかなかつた。

「へん！　主任がきいてあきれらあね。生意氣だよ。かまはないからなぐつておしまへよ！」

妻君は、かう良人にけしかけて、いま〳〵しさうに火鉢のふちを烟管でトンと叩いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わめく聲……罵る聲……女の泣く聲……何か器物のこわれる音……それ等が渦巻きのやうに、いつしよくたになつて、ワァーッと彼の身體からはなれて行つた……。

六

翌日、村上は早朝から館主のところへ、駈けつけて、先づ、自分は退館したいから即座に暇を下さいとばかり、館主の度膽を拔いてから、その理由としては丸山が主任辯士として專横であること、樂屋のものは言ふまでもなく、下足番からまでも反感を買つてゐること、それで昨夜はつひに喧嘩になつてしまつたこと、丸山の肺病が世間に知れると劇場の人氣に關すること、最う餘命幾何もないこと……などをならべて、丸山君を退館させるか、自分に暇をくれるかと、うはべはいたつてやわらかい言葉で、のつぴきさせぬ二つに一つの返答をうながした。

「まァ〳〵君の惡いやうにはしないから」

と、そこはそれ利害の打算以外なにものも眼中にない館主のことだから、暗默のうちに或る暗示をほのめかして、村上を一先づ引揚げさせた。

「あの男が此の劇場にゐるうち、肺病で斃れる――そいつはたまらない。あと仕末が面倒だ」

館主は館主で今のうち、丸山を追ひ出す方が得策だと考へた。

七

彼はなぐられた翌日、關節のところが、ぐ〳〵うづくのと、突きのめされるやうなはげしい疲勞とで、蒲團に横たはつたまま殆ど大病人のやうになつてゐた。そしてわれ知らずしつきりなしにうめき聲を洩した。

すべてが見はなした彼を、彼の妻だけはやさしい對度を見せて看病した。

しかし、彼の心には、妻のさうした看病が、そのまゝ素直にうけいれられなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼には、枕下でなにくれとなく心を配る妻が、むしろうるさいものに感じられた。

「自分に本心を見拔かれたてれかくしに、わざとかうした對度でごまかさうとするのだ」

彼はかう思ふと、妻の心の底が見え透くやうな氣がしてわけもなく憎惡を感じた。妻に對して一言も口をきく氣になれなかつた。そればかりではない。彼は、村上等に對する憤恨が、胸に、鉛のやうに重く、熱して、喰ひ下つてゐるのをたまらない苦痛としても感じねばならなかつた。彼はごうにもならないその苦痛をも、うめき聲にからんで洩らした。

――しかし、翌朝になると、昂奮も、疲勞も、どうやら拔けていつたやうな、いくらかおだやかな氣持になることが出來た。

「病身の自分がごんなにあせつたところで、むきになつたところで、ごうしても打ち勝つ得ないのだから、むしろ自分から折れて出るに如くはない!」

かう思ひながら彼は不安な自分の行末を考へた。すると何もかも、世の中の一切が呪はしくなつてきた。自分自身さへも……。

彼はすぐに思ひかへした。そしてそゝくさと蒲團から拔け出した。何時もより入念に顏を洗つて、わざと笑顏をつくつて、村上の部屋へ詫に行つた。

それでも、村上の顏を見ると、喉に鐵の棒でも呑んでゐるやうなぎごちない氣持であつた。

丸山が不意に折れて出たので、意外に感じた村上は、これまたつとめて打解けたところを見せて、何事もなかつた人のやうに世間話でその場をまぎらしてしまつた。

村上は腹の中で、「ふゝむ!ざまあ見ろ!」と嘲笑したのは言ふまでもない。

するとその日の黄昏ごろ、意外にも彼は、館主から今日限り解雇の手紙を受取つた。その封筒のなかには、日割の計算で今日までの給金が入れてあつた。彼がそれとなく感じてゐた不安が、こんなに早く事實となつてあらはれようとは思はなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「今更騒いたつて仕方のないことだ」

此の社會では、かうした使用者の冷酷があたりまへのことなのだから、吾れと自ら憤りの感情を強へてあきらめること
に依つて、彼は壓へようとした。それにつけても、村上等が館主をつッ突いたんだな――と思ふ猜疑が、あらゆる想像の
場面をつくつて彼の心に見えて來た。

「彼奴の仕業だ！」

彼は最うすつかりかう斷定してしまつた。そして復讐に燃え立つ心持を、それは、恰も奔馬の手綱を引き締めるやうに
ぐつと壓さへた。

彼は健康が欲しかつた。腕力がほしかつた。

二三年前の、しかも放縱な生活に溺れてゐた時代の、ぢやうぶで、がむしやらだつた自分がしのばれた。村上の前に、
頭を下げた自分を思ふと、いつそ自分のからだを引裂きたいやうな腹立しさを感じた。

八

「今夜限りだ！」

彼はかう自分自身に囁きながら、いつものやうに舊劇の前説明に出た。

舞臺のまんなかから、眼にあまるいつぱいの觀客を見まわしながら、彼は、それとなく觀客に別れの言葉を用意して、
お叩頭をしてから、さて口を開かうとすると、舞臺のすぐ下のところにゐた子供が、何か彼の渾名を言つて彌次つた。

その瞬間、彼は一切がつまらないやうな氣持に襲はれて、そのまゝ口をつぐんでしまつた。

チョン〳〵と木がはいると同時に、場内の電燈が息をひそめるやうに暗くなると、觀客の眼は一つせいに映畫面にそゝ
がれた。

彼はいつものやうに、舞臺の左側の隅にかくれて臺詞をつけはじめた。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……二場面ばかりが轉換して、大敵き役が畫面に姿をあらはした時は、村上が何時の間にか樂屋から出て來て彼のかたわらに立つてゐた。

村上の臺詞が出るか出ないに、彼の壓さへてゐる憤怒が、不意に煽られて、爆發しさうな氣持ちを感じさせられてしまつた。

彼は思はず薄暗がりに立つてゐる村上の姿を睨んだ。

彼の松之助役と、村上の大敵き役とが顏を合せると、彼の心持は眞劍にいきり立つて、臺詞の上ではげしくたゝかひをいどんだ。

聲量のいたかな村上は、彼の臺詞を喰つて了はうとして、こゝぞとばかり、しきりに聲をおッかぶせるやうにした。

彼の役が虐げられるか、屈辱を忍ぶところへ來ると、臺詞にひとりでに淚がからんでしまつて時々聲が塞つた。

觀客席がシーンとしてゐる――その間を縫ふて辯士の臺詞が流れる――低いが底力のある彼の聲は、觀客の胸をゐぐるやうに銳くひゞく……。

彼はかうして思ひ切り叫ぶ瞬間、吐血して死んで了ひたいと思つた。喉を搔き破つて一ぺんにあるつたけの血を、臺詞といつしよに吐いて死にたいと思つた。

「今にごうするゐ覺えてゐろよ！」此の臺詞で松之助が眼をむいて見得を切るのが最後だ。

彼の頭のなかには、館主の顏に村上の顏もこんぐらがつて燒き付くやうに浮んでゐた。

彼は此の最後の叫びの瞬間に、世の中が、ひつくりかへつてくれることを、心のごつかで懸命に願つてゐるやうな氣がした。

……その場面が來た。

畫面に大寫しとなつて浮んでゐる松之助の顏が、昂奮しきつた彼の眼にチラリと映つた時、もう、瞬間から瞬間へ……自分のからだぐるみ鐵板へでも叩きつけるやうに、「今にごうする覺えてゐろよ！」と、吾を忘れて、腹の底から憎惡を絞り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出すやうにして叫んだ。……

——映寫が終るといつしよに、主任の彼は舞臺のまんなかに出て觀客を送り出さなければならない。彼が舞臺に姿をあらはすと、待ちかねてゐたやうに三等席から、仲夫體の男が飛上るやうにして「丸山ァッ!」と吸鳴つた。それに呼應して同じ三等席から、五六人の勞働者風の男がいつしよに、「丸山ッ!」と浴びせた。

それは嘘りもなく感激のあまりに叫ばれたのだと彼は思つた。彼の眼からは、それ等の勞働者風の男の顔が、何かしらんかゞやきを帶びて見えた。誰よりも、最も親しいものに見えた。彼はその刹那、舞臺から狂的に飛び下りて、その叫んだ男達と相擁したい氣持を感じた。彼の心のなかゞ何となく、やわらかに明るくなつた。彼は思はず觀客席にむかつて、心からにつこりした。

そして、かうした瞬間にこそ、自分の生命を賭けるため生きてゐたのだ——と思つた……。

その夜の、奇蹟でも發見したやうな明るい心持は、彼の生涯にとつて最初であり最後であつた。それから後、何處の常設館でも彼を使つてはくれず、例の樂屋に妻と二人で喰ふや喰はずの日を送つてゐるうち、二三ケ月後、世間からすつかり忘られた頃彼は不意に此の世を去つた。

——十一・四・二日——

次號豫告

支那では反宗教運動を起してゐる。ゼノア會議は勞農露國承認の形勢を示してゐる。かうした世界のうごきの底に、どんな思想が新しい流れを見せようとしてゐるか? 六月號には、小牧近江氏がバルビユスのクラルテ運動その他に就て書くことになつてゐるし、佐々木孝丸氏が反宗教運動にからんで宗教に對して徹底的な意見を公けにすることになつてゐる。

痩せて蒼白い顔をした夫

金子洋文

一

とう〳〵本降になつた。

お主婦さんは戸口に一寸立止つて空に眼をやつてから歩き出した。彼女は内心嬉しかつた。そして明らかにその場面を眼に見ることが出來た――電車から悄然下りて來る夫を元氣のいゝ言葉で叱りつけて、腕をつかんで、ぐん〳〵引つるやうにして一つ傘で歸つてくる、その時きまつて周圍の人達はびつくりして二人に視線をあつめるのであつた。

「この人を馬鹿におしでないよ」お主婦さんは勝ち誇つたやうに周圍を輕く見やりながら心の内で叫ぶのであつた。「こんな親切な女房をお前さん達は持つてゐるかい。」

而しお主婦さんはこの喜びを顔に表はさなかつた、反對にひどくぶり〳〵してゐるやうに顔をしかめてゐた。

「やあ、雷さんがまた亭主を迎へに行くよ。」かう、近所の人に言はれるのが、彼女にとつてまた歡びであつた。

太つてゐるお主婦さんは浪にゆられてゐる舟のやうに、兩肩を左右にぐん〳〵ゆり動かして急いで行く、小さく結んだ帶が大きな腰の上に糊でくつつけたやうにチヨコンとのつてゐる、着物が短かいので白い丸々した足頸がほのかに見えてゐる。

酒屋の前で、彼女は鼻の低い酒落者の中僧と出遭つた。

「お主婦さん何處へ行くんだね。」中僧は小鼻をびく〳〵動かして、輕い嘲のまじつた聲でたづねた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「お馬鹿を迎へに行くんだよ。」お主婦さんはなげつけるやうな荒々しい言葉でどなつた。

「おい小僧さん、いゝ奴を三合大至急届けておいとくれ。」

中僧がびつくりしてへエと答へた時には、お主婦さんのたつた姿は二四間行過ぎてゐた。彼女の心は全く滿足に充たされてゐた。

二

雨がひどくなつて來た。

瓦婆の廣告や活動のポスターなどをベタ〳〵に刷りつけてある、物置小屋のやうな京王電車の待合所で、お主婦さんは電車を待つてゐる。彼女は夫のことを考へる。のろまで、働きのない夫のことを考へる。東京に來てから六年にもなるのに、市内の電車さへ滿足に知つてゐない。上野へ行くのに品川まで持つて行かれたことさへある。まるで荷物のやうに——人ごみの中では他人の足を踏んで「氣をつけろい」とどやしつけられて、眞赤になつてお辭儀をする。大人の友達は一人だつてゐない。いつでも鼻つたらしの小僧つ子共と駈つこをしたり、ふざけたりしてゐる。子供に頭をなぐられて、大きな口をあいて面白さうに笑つてゐる——。

「何がおかしいんだい。」かうお主婦さんは心の中でどなつたが、その時のことを思ひ出して思はずぷつと吹出した。

「あの人は何んていゝ人だらう、私はあの人にぞつこん惚れてゐる。」

電車が來た。

會社員らしい若い男が三人と、職工らしい男が二人と、子供を連れた奥さんが下車した。奥さんは果物店の前にゐた人力を呼んだ、他の若い男達は傘を持つてゐないので、強い雨の中を外套の襟をすぼめて身輕に飛んで行つた。電車は動いた。一分間とたゝないうちに、周圍は前の暗さと雨で呼ぶ冷たい靜けさに返つた。

お主婦さんはホつと溜息をもらした。そして自分に歸ると、急に、今一寸の間氣を奪はれた、敏捷な若い男達の動作に

對して烈しい反感を呼起した。

「いくら悧好ぶつたつて何になるんだ。」と、彼女は心の中で叫んだ。「何も出來やしないぢやないか、お前さん達は友達を賣ることは知つてゐるが、社長の頰面をたゝくことは出來ないだらう。あの人はそれを見事にやつてのけたんだ、廣い工場の隅から隅まで聞える程、ピシャリッと、たゝいてやつたんだ、あの人が私のやうないゝ女房を持つてるのはあたりまへだ。」

すると、彼女の眼には悧好さうな彼等の姿が何かの繪で見た、大男の鼻の一息で吹きとばされる小人のやうに、あはれに見え出した。彼女の心はすつかり前の滿足に歸つた。

「あの人がそれを女房の私に默つてゐるなんて、どんな氣だつたらう。」と、彼女は尙も夫のことを考へる——。

彼女がこの事件を知つたのは翌日であつた。

「お前さんとこの人は、昨日えらいことをやつたんだつてね、社長が狡るい言葉で職工達を丸めやうとした時、いつもだんまりのあの人が、のこ〳〵社長の前に進んで、左手を襟にかけるや否や、右手でピシャリ、社長の頰面をなぐつたさうだよ、おかげで皆の給金があがつたんだつてさ。」

おしやべりの仲間のお主婦さんから、かう聞かされた時、彼女の胸は大きな石をぶつつけられたやうにどきんとした、血がぐわつと顔や頭にのぼつてきて、ふら〳〵と倒れさうになつた、歡びと怒りがごつちやになつて、心の中でわきかへつた。

「私も昨夕、そ、そのことをきかされて、あきれかへつたのさ。」彼女はぷん〳〵憤つて、叱りながら叫んだ。「それでお馬鹿を一晩中醜めてやつたんだよ。」

この荒々しい意外な言葉に、友達があつけにとられてゐる間に、彼女はさつさと外へ飛び出した、彼女は何かに追かけられてゐるやうにぐん〳〵歩いた。

「よくやつてくれた、よくやつてくれた。」と、彼女の心は嬉しさで一ぱいだつた。而し彼女はぷん〳〵憤つてゐた、「こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の私に何も言はないなんて、こんなに思つてゐる女房に默つてゐるなんて。」

彼女は自分が何處を歩いてゐるのか判らなかつた、涙が眼にあふれて來た、夢中で家に飛込んだ、彼女はべつたり坐り込むと、膝の上に涙をボタ〳〵こぼしながらボンヤリしてしまつた。

「あの夜ほどうれしいことはなかつた。」と、彼女はあかるい眼を雨にそゝぎながら考へつゞける――。

その夜夫が工場から歸つて來ると、彼女は顏を眞赤にしてガミ〳〵どなりつけた。そして夫が、いつもより多い酒にすつかり醉つてしまふと、抱へるやうに寢床に投り込んだ。そしていつもより二時間も早く電氣を消してしまつた。

「お前さんはなんてわからず屋だらう。こんなに思つてる私を、こんなに思つてる私を……さあ、私の頬をたゝいてごらん、どんなに風に社長をたゝいたの、さあいゝから、力一つぱい、私の頬をたゝいてごらん。」けれ共夫は無言で笑つてゐるばかりであつた。彼女はぢれつたさうに肩にのつてゐた手をとると、自分の頬をピシャリ〳〵なぐりつけた。

電車が來た。

七八人がぞろ〳〵と下車した。而しその中には彼女の夫がはいつてゐなかつた、人々は去つた、皆恰好さうで、皆立派なものを身につけてゐた。

「お前達はね。」彼女は侮蔑の眼で人々を見送りながら獨言する、「お前達はね、あの人が馘首になつても默つてゐたぢやないか。

彼女の夫は同盟罷業が無事に終つて一月たゝない内に馘首された。それから二月位遊んで、代々幡からかなり遠い巣鴨のある工場に通つてゐるのであつた。彼女はその二月間の苦しい貧乏な生活を思浮べた。

三

雨がます〳〵ひどくなつて來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

冷たい風が待合所の横合から吹きつける。

三台目の電車が通り過ぎた。

四台目の電車が來た。

職工が四五人下車した。而しそれにも彼女の夫は乘つてゐなかつた。彼女はぢり〳〵し出した。立つたり坐つたり、待合所のはげたコンクリート面をひごくふみつけたりした。産婆や醫者の廣告にも腹が立つた、冷たい風になつてゐる活動のポスターにも腹が立つた、若い女に色三をつかつてゐる松之助の孤面を力一つぱいぐわんこなぐりつけたいやうな氣がした。

「皆が歸つて來るのに、あの人はまだぐづ〳〵やつてゐるんだ。」

彼女の怒に燃えてゐる眼に、ぼんやりした夫の姿がはつきり映る、他人が爭つて手を洗つてゐるのに、まだのんきに鑪を握つて仕事をしつゞけてゐる、汽笛がなる、そこで顏を持あげてあたりを見まわす、誰もゐない、おや〳〵こ言つた風に自分で自分を笑つて初めて工具を片つけ初める。

「これまでたつぷり廿分かゝるんだ。」彼女はます〳〵夫の愚鈍さを誇張して考へつゞける。油で汚れた手を洗ふのに十分、仕事着こ洋服こ取替へるのに十分、門を出て電車へくるまで十五分、そして停車場では何十分待つか知れたものでない――。

「私は何うしてあんなのろまな人こ一所になつたのだらう。」彼女の全身、彼女自身が口ぐせに言つてゐる大きな心も、太つた肉体も、すべて夫に對する憎惡で充たされた。「誰があんな人こ、いつまで一所でゐるものか、今に歸つて見ろ、今晩中に別れてやるから。」

五台目の電車が來た。車内はガランこ空いてゐて、下りて來たのは百姓らしい七十に近い老人であつた、一杯のんでゐるらしく、歯のない口のまはりが、びく〳〵痙攣的にうごいてゐた。

電車が動き出した。雨の中を老人はよろよろしながら去つた。どしんこ、烈しい音をたてた程、彼女はがつかりして台

に腰を下ろした。今は夫を憎む氣力も何もなかつた。

雨はますく〱ひごくなつて來た。

冷たい風が勢を得て吹きつける。

お主婦さんの心は次第に沈んで行つた。彼女はふこ、雨の烈しい夕暮、田舍の雜木林を通りぬけて町から歸つた時の、遠い娘時代を思ひ出した。するこ彼女の心は急にある不安に面接した。

「あの人は、またなぐつたのだ、社長をなぐつたのだ、……」それこも、機械にやられたのかしら、きつこさうに違ひない。」

不安は忽ち彼女を捕虜にしてしまつた。彼女の眼は恐しい場面を見た。皆にけられて、なぐられて眞赤になつて倒れた夫の姿、足と手こ胴こバラ〱になつて荷車で運ばれてくる夫の姿——こ、急に彼女の心は荒々しい感情におそはれた。彼女は立上つた。

「お前達みんな、みんな、くたばつてしまへ。」

六台目の電車が來た。

ふこ運轉手台から車掌台に眼を移した時、彼女は、汚ない洋服を着た、痩せて蒼白い顏をした夫が、仕事に疲れきつてぼんやり下車して來るのを見た。

彼女の胸はどきんこ浪うつた、駈けるやうに夫の傍に近よるこ、「お前さん。」こ叫んでその手にすがりついた。夫がびつくりして、キョトンこしてゐるのにかまはず、彼女はつかんだ手をそのまゝぐん〱引張つて。駈出すやうに歩き出した。そして八百屋の角を左に折れて眞暗な小路にはいつた時、彼女は機械のやうにぴたり歩きこまつて、今一歩「お前さん。」こ呼んだ。こ同時に、夫の細い兩肩に太つた兩腕をなげ出したまゝ、子供のやうに兩肩をゆすぶつて泣出した。

—一九二二・三・二〇—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論叢

府中の小作組合動く

ペコリンスキイ

東京府下府中町の小作人組合(府中町、多摩村の小作人五百余名からなる小作人組合)は其後益々結束を固くし、最近になつて國分寺並に立川に新しく生れた小作人組合をも加盟させて、今日では欝然たる一大勢力を形成して、頑迷不靈なる地主階級に對して、一大脅威を與へてゐる。それだけにこの小作人組合の組合長矢部甚吾氏に對して、地主階級並に其等の手先の者供が放つ悪聲や恐迫狀は、瀕々こ每日幾通こなく舞ひ込む。それが却つて小作人組合の結束を固くし、闘爭意志を强烈にするばかりなのだから、結果に於ては、地主達が自分の手で、自分の塚穴を掘つてゐるやなう滑稽を演じてゐるのだ。しかし、悪辣な痺怯な地主どもは、犬の遠吠的に手紙で恐迫してゐられなくなつたこ見えて、彼等の常套手段たる兵糧攻めの兵法を、露骨に使用しだした。即ち矢部氏の商賣(氏の家業は薪炭屋である)を妨害する事に着手しだした。地主ごもは、正々堂々こ理論で戰へば、一も二も無く自分達の敗北こなるのは知れきつて居るので一同が申し合せて矢部商店に對する非買同盟をやり出したのだ。そして、遠く東京邊に遊學してゐる、自分達のノラクラ息子ごもを指嗾して、矢部氏に對して恐迫狀を郵送するのみか、「降參しろ、そしたら今日迄の汝の不心得は宥してやるのみか、飯の食へるやうにもしてやろう」こ云ふ樣な意味の手紙を瀕々と送くつて來る。この痺怯なブルジョア根性露き出しの手紙を見る度に、府中小作人組合員五百余名は、益々奮起して「やつッけろ」と云ふ感情に燃え立つて來る。そこで、今春も既に次のやうな通告狀を、組合長矢部甚吾氏の名で、各地主達全部に郵送した。

拝啓春寒凌峭こして難堪候處益々御隆昌奉賀上候陳者御承知の通り物價は益々高騰し其反對に農作物は下落の歩調を辿り殊に昨年の不作は今尙癒えず困憊を重ね

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此の狀態を以て推移せば農家殊に小作人は滅亡の外無之候就ては今般小作人一同協議の結果畑小作料の件三割減に御願申度最も地主により小作料金一定せず依つて之を平等に三割減を主張するも至當ならざる點有之べくに付小作人個々に渡り參上御願申上べくに付御對談被下是非共右御減額の儀御承諾被下度此段特に御願申上候畢竟する一等地十二圓位の收度に御願申度所存に候終りに一言申上置度事は右の通り減額被下候ても一と度農作物にして高價に賣行く場合等有之候はば地主諸君に於て相當値上被下候ても苦しからず候次に尙御懇願申上度は下肥の件に候目下農作物に比較して一般肥料は高きに失し殊に下肥は運搬其他取扱上容易ならざる點有之其勞働賃金等を加算すれば中々不廉に御座候此點何卒御了察被下左記の通り御承諾被成下度御願申上候

下肥は一圓に拾荷にて汲取る事

四月一日より實行下さる事　以上

それで、これが地主達と協定出來ない曉には、昨年十月この組合創立當時に成定した組合規約第八條但書第一の件を實行すると云ふのだ。この但書には何とあるか、曰はく「頑迷にして温情なき强制的地主に對しては、別途の方法を以て反省を促す事」とある。この別途の方法を實行すると云ふのだ。別途の方法とは何ぞや、などと徵温い事を訊く可らず。元來、府中町を中心にした各村落の農民は、自由民權の高唱された明治廿年代以來、所謂三多摩の壯士として鳴らした者どもだ。[redacted]昨秋の府中町小作爭議を實地に見た人は、五百余名の組合員が秩序整然、一糸亂ぬれ鮮やかな態度で、大デモンストレーションをやつゝけた時の模樣を、腦裡にはつきりと印象してゐる筈だ。その時の指導者は矢部甚吾氏だつたが、若し同じ昨年の神戸の勞働爭議を見て居る人なら、神戸の死導者賀川豐彥氏の死導振りと比較して、天地雲泥の差がある事に、馬鹿でない限りは氣がつく筈だ。一方は死線を越えもせずに、頭の中で無抵抗主義とやらの理窟をこね還して御座る人間樣だ。然るに此方は理窟も何も知らないかはりに、「[redacted]ただこの生一本な感情で[redacted]指導された小作爭議だ。そしてこの時の矢部組合長を始め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五百余名の組合員は　文字の上で死線を越えたり、太陽を射たりしてはゐなかつたのだ。眞實に五百余名が生死を賭しての爭議だつたのだ。純一な正義の前には、强敵と稱すべきものは何もない。昨秋の爭議が小作人側の勝利に歸したのは當然な話で、何時も恁う云ふ場合には、ブルジョア階級の御用を勤める警察の方でさへ、地主よりも小作人側に同情と厚意を持つたと云ふのは、眞實の前には、一切のものが頭を下げずにゐられないと云ふ、いい證據だ。

如何に地主どもが、自分達のノラクラ息子や、その手先どもをして御用を勤めさせて犬の遠吼式な威喝をやつたり營業妨害に非買同盟を强制させても、そんな事は益々彼等を窮境に陷れるだけだ。現に府中の小作人組合では、單なる府中町の小作人のみの結束に滿足しないで、郡全体の小作人組合に擴張するべく、計劃着手してゐる。そして、尙ほ一層擴く全國的に統一連絡をとつて、全日本小作人總同盟の計劃すらも立ててゐる。矢部甚吾氏は「是非とも小作爭議を一局部的な議とせずに、常にそれを全國的なものにしなければ、效果は薄い」と熱心に主張してゐる。だから最近(四月上旬)東京府下國分寺村に爭議が起ると同時に、矢部氏は直ちに立つて其の爭議に赴いた。事件の起りは恁うだ。國分寺分の地主某の所有田が、この三月下旬になつて、突然東京の某富豪に賣却された。所がその田地は八人の小作人が從來から借り受けて小作して居るもので、既に今春も田地の割當其他一切の事は決定して終つて、これから愈々耕作と云ふ間際になつて、この始末となつたのだ。所がその買主である某富豪は、これらの小作人に對し、この土地は以後汝等で耕作する事は罷りならぬと云ふ嚴命を突然に下した。然し小作人の側では、契約證書にある年限は未だ切れてゐないし、尙、今日にあつて、小作田地を取上げられては、八軒の家族は今年から餓死しなければならぬ。それかと云つて他に小作田地を借りやうとしても、既に時機を失してゐる。どうか今年も同樣に作らせてくれ、小作料を高くしてもいいから、と歎願に及んだのだが、吸血鬼の樣なこの富豪は、「成らぬ、存ぜぬ」の一點張りで、「汝達小作人が生きやうと死なうとそれが俺と何の關係がある。俺は此處に別莊を造るんだ。それで汝達が飯が食へず、死なければならぬと云ふのなら、勝手に死んだがよからう」と跳ねつけた。それを傳聞した矢部氏は奮然として蹶起した。今尙ほ係爭中であるが(四月七日)、その爲めに國分寺村小作人組合が直ちに府中小作人組合に聯盟加入

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したのは、既に記した通りである。

恁うして府中町小作人組合は、次第次第に三多磨の小作人組合に擴張せんとして居る。何れ今回の畑小作料三割減の要求が無事貫徹するか、或は拒絕せられて小作人組合の示威運動が勃發するか、形勢は現在の所では未確定だ。唯確かな事は、拒絕せられた曉には、組合長矢部甚吾氏が五百名の小作人を率いて、別途の方法に出づる決心をし、居ることだけは確實だ。[redacted]

（種蒔く人一月號參照 ——細は次號に）

陶器やビロードは其後

——叛逆人の言葉、（一）——

原田邦三

舊い言葉の蒸返しだが、人間は麵麭のみで生きられるものではない。たしかにそれは事實である。享樂、思索と云ふ樣な贅澤を本能的に持つてゐるのが人間である。それが時に依ると生存慾よりも强く働きかける事さへ往々ある。現代人には最早その贅澤を離れて生きられない程に思はれる。この感情の一つの現れが藝術であることは否定することは出來ない。藝術とは人間が、食ふ、飮む、自分の住所を作ることを得た後に持つ技巧的性質の欲求から創造される享樂！　最も高尙な「人間の達し得べき最高の娛樂」である。トルストイの言葉に「藝術家は自然、若くば人生の觀照に於て經驗したその儘の感情を他人に傳へることを常に心掛けねばならぬ」といふのがあるが、他人に傳へることいふ心理は、突き詰めると自身の感情を以つて他人を感染せしめるといふことで、ひいては他人に對して優越感を抱くことである。優越感を持ち得る事程偉大な自己享樂は人間としてさう澤山はあるものではない。この頃流行の所謂民衆作家や社會藝術家共の心理は、彼等の優越感に對する自己滿足にありはしないか。兎に角く、藝術が人間生活慾の餘裕表現であり、享樂を目的とするものであるのは、プロレタリアに藝術の無いのを見ても分る。何時の時代でもさうであるが、現代のやうな資本主義制度の發達した社會では、少數の貴族、金持、地主等の階級を除いた大多數の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人間は、食ふ、飲む、自分の住所を作ること以外にはまるで考へることを許されない。プロレタリアにとつては、藝術は望み難い一つの贅澤である。

勞働者は、彼等を掠奪する雇主の慾望の爲めに仕事を得ないでゐる。農夫は朝から晩まで、何時も鋤を握つて腰を屈めて、地主の爲めに働き續けさせられてゐる。家族は乾からびた麵麭と、粗末な寢床さへろくすつぽうに與へられずに飢餓と寒さに顫へてゐるのである。

而し、食ふ、飲む、自分の住所を作ること以外に、何も考へることを許されない人間、貧しい農夫にでも藝術心は存在してゐる。彼等の破れた家庭を覗いたら、これがどうして人間の宿かと不思議に思ふだらう。けれども旋ひ上がる埃と鼻を衝く臭氣とを堪えて注意したら、人目に着きやすい場所に、やすつぽいが美くしい石版畫等が貼られてあるのに氣注くに違ひない。又田舍を旅行したならば、彼等が其仕事から歸り途に、夕陽の壯麗な光景に眺とれてゐるのに逢ふであらう。かく自然を樂しみ、藝術を好く感情は萬人の心に強く働いてゐるのである。其にも係らず彼等には、この正當なものさへ與へられない！　否その感情さへ押潰されて盲目にされてゐるのである。本當に藝術(アート)はブルジョア文明からは逃げる！

今日の如く幾百千の人類が、麵麭、石炭、衣服、宿所にさへ窮せる時に於ては、總ての贅澤は無論罪惡である。其を滿足するには、勞働者の子の麵麭を無くせねばならぬ。

私は藝術に就いて思ふ時、一無政府主義者の言葉を思ひ浮べる。「吾人は、先づ最初に麵麭を確かに得られるやうにしやう、陶器や天鵞絨は其後のことにしやう。

飛びゆく種子に就て

本號には、レオン・トロツキーの短編、チクレエルの家族を譯して附錄としました。トロツキーの一面を知る上に最も貴重なものだと思ひます。今後、經濟のゆるすかぎり、此のリフレットの發行をつづけてゆきますから出來得るかがり此のリフレットが一般に行渡るやう、讀者の盡力を望みます。

野外劇「番犬」

當場動物

番　犬

カメ犬

小狐一

小狐二

小狐三

場所　しの田森附近

時日　この頃の話

小狐三疋大狐の棲家から出る。そこをつけねらつてゐた番犬、横柄に。

番犬―ワンワン、暫く、俺はしの田署の番犬だ。君等は何用あつて大狐の許へ行つた。

小狐一―「猿芝居と犬芝居」(こん度出た「無産社」のリフレツト)を買に参りました。

番犬―(小狐一に)君の名と職業と年齢と。

小狐一―〇〇社の〇〇。詳しいことは〇〇へ行つて聞くがいい。

番犬―もう一疋狐が君等のあとから入つた筈だな。あれは何だ。

小狐一―僕の知つたことではない。一体白晝大狐を訪問してはならぬのか。

番犬―そんなことは更にない。

小狐一―それではお伺するが、これからも一遍行直してもいいでせうか?

番犬―(怒聲)ワンワンワン、そんなことを聞く奴かあるか。

小狐一―ていねいに聞くことが何が悪い。

番犬―生意氣言ふと、犬小屋へ連れて行くぞ。ワンワンワンワン。

小狐一―腹が減つてゐるのですが、そこで飯を食はしてくれるでせうか。コンコンコン。

番犬―……)ワンワンと叫びながら犬束しようとする。

小狐二、小狐三―承知せぬぞ、コンコンコン。

番犬―(狂犬の如き態度にて)何に、ワンワンウーム。

この時洋服姿のカメ犬何處からか突然あらはれ事情を聞き

カメ犬―一体君等は狐のくせに犬をからかうなんてよくない。

番犬―(激して)俺は國粋會の善良なる精神をもつて税金を拂つてゐる人間様を擁護するのだ。俺はその上浪花節の名人だ。一体コンコン主義はよくない。君等はそうであるかどうか知らないが。俺は皇室中心主義者だ。職權を重じてゐるのだ。君の方から御役目御苦勞様と言ふのがそもそも當然なことだ。

小狐三疋―(異句同音にて)御役目御苦勞様々々。

カメ犬―(手のつけられないといつた態にてしかも壯重に)君たちは犬につける藥のないことを知らないのか。(幕)

――赤　等――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

批評

帝劇の改作問題

當事者でない僕が、横合ひからかれこれ言ふのも異なものであるが、局外者として指をくはえてゐる可きものでもないから、少しばかり所感を述べて置かう。

帝劇が無斷で山本有三氏の「女親」を改作したことから、それが大倉喜八郎の指し金であつたことから、劇作家協會の憤起となり、首尾よく兩者が妥協した事實の經緯は、當時新聞紙上で發表され、その記事にも間違ひがなく、そればかりか大方の諸氏も事實は知つてゐられるだらうと思ふから、此處ではその事實を述べない。——直ぐ所感に彩ること、今の劇作家ほどだらしのないものはないらしい。勿論二三の例外はあるだらう。が、その態度の微温さといひ、卑劣さといひ、坊間の腰辯知識階級と何等の選を異にするものではない。殊にその境遇に於て、多少の恕すべき點があるとは言へ、心裡の唾棄すべきは彼の座附作者といふ徒輩である。伊藤松雄、濱村米藏、邦枝完二、宇野四郎、河竹繁俊——等五を以て數へる。外に藝術家といふ假面を被り、内心所謂芝居者然として、始め劇作家協會が憤起した時に、同じ會員を脱して帝劇に就いたといふに至つては、彼等の面に唾するも尚足りないものがある。僕等は、敢て彼等を相手にし、今迄とても兎や彼う思つてゐるものではなかつたが、只彼等の名はこの際僕等が忘れてはならないものである。

それから、今一つの不服は、文人畫家の集りださうである例の來者會である。これは兩者の間にたつて、仲裁の勞をとつた。——かう言へば誠に立派であるが——これは誠に不結構なことで、彼の協調會と何等選むことのない點に於て、この兩者は一致してゐる。かゝる處行は現在の劇作家を墮落さすと共に、又將來の我國劇藝術に進路を拓かぬものゝ甚だしきものである。この理由は勿論明白である。此處に説明する必要はあるまい。やるものをして一度び突破せしめよ。その後に出るものは必らず本物であらう。僕

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は敢て來者會諸氏に希望を述べるものであるが、斯かる場合、決して協調をされないこさである。それは誠に情誼に厚いやうで、事實は然らず我國の劇藝術の進歩を何れ程阻害するものであるか。それは帝劇が今迄新劇の爲めに痒して來た、その恩義――强ひて言へば温情――以上に、我國の斯界の發達を遲緩せしむるものである。その爲めに帝劇が新劇に手をつけなかつたさしたところで要求あるこころに必らず、他の進路、はけ口はあるべきものである。それは何時の時代に於ても當て篏まるべき一つの原理に外ならないのみならず、反つてその爲めにより早く進むべき性質のものでさへあるのである。手近に例を引くならば、サンガー夫人問題の如き、サンガー夫人の價値は、我が英明なる日本政府が高発且つ確定してくれたこさ夥しい。このこさは、我が劇作家協會の場合にも言ひ得る。須らく、帝劇をして劇作家協會の名を成さしめよ。協會にも人あるこさを知らしめよ。

然るに、來者會がこの態度に來たのみならず、劇作家協會自身已に誘ふ水あらばこいふ頗る微温的態度に出で、協調者を待つてゐた感じさへあるではないか。そして、しもりも内部の人からの話を聞けば、比較的老人組が强硬で、今流行兒と言はれる人々の間に、非常に功利的な、一とロに言ふならば、今喧嘩するのは愚だから、宜敷く妥協して取る分取つてやれといふ、其處いらの商人と何等選ぶところなき考へで、老人連の意見に横車を入れたといふことである。僕等はこの事實を、或る信用ある人から聞いたのであるが、帝劇對協會問題は、ひいて大倉對協會の問題であり、對社會的にも藝術の爲めにも尤も重大な問題であるべきである。とり分け、我國劇藝術の進歩發達の爲めには、協會は今の場合尤も重要な地位にをり、且つ尤も責任ある人々であらねばならぬ。然るに、その態度は何うであるか、功利の外に何があつたか、僕等は協會の人々に責任を問はむと力む前に、寧ろ呆然とせざるを得ない場合にある。同協會内には一人の階級鬪爭の眞意義を解するものがなかつたか。新藝術の展開の爲めに、一人の責任を重んずる人さへ無かつたのであるか。それとも、責任を感じながらも、その餘りに力の微弱であつたが爲めか。僕等は、その正義の人々の爲めに衷心の泣を注ぐさ共に、同協會が單なる劇作家の縱斷的組合であつたこさが、斯かる態度に出させた一つの原因であることを見逃すものではない。この意味に於て、今言ふ少數の人々は措いて、同協會の總べての人が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最早や過去の、語を代へて言ふならば、階級鬪爭を認めない、革命を認めない、所謂意味のブルジョア藝術家であると言ひ度いのである。

この問題の批評は、いろ／＼の人でされたやうである。僕はその總べてを讀んだものではない。ほんの二三讀んだのであるが、そのうち菊池寛氏のは「改造」のも「新演藝」のも讀んだ。又内田魯庵氏の太陽に於る批評をも讀んだ。さうして泌々考へさせられたことは、菊池氏などは直接利害關係のある人かは知らぬが、同じ四月號のうちで「改造」と「新演藝」とで、かうも言はれる態度が違ふものかと思ふと、此處では文章上の一句々々の詮索は拔きにして、それから又單なる僕の罵倒でなしに、斯うも意見の使ひ分けが出來るかと思ふと、そのお手際は天勝や天華の曲藝以上の早業だと思はせる程に、その手際の鮮かなことに驚かされるのである。二枚舌とやらは最近の流行であるが、此處にも矢張り二枚舌の存在がある。「改造」でこの問題を材料とした劇の筋書が見せられるかと思ふと、「新演藝」では山本專務に秋波を送る手際の鮮かさ、そしてこんな鬪爭の場面は西洋の近代劇には、ちよい／＼と見かける場面ださうだが、此處まで來れば實にいゝ氣なものではないか。

その點になると、僕等は内田魯庵に頭を下げなければならない。魯庵氏が逸早く、同協會が帝劇と妥協するであらうことを喝破し、それぱかりでなく批評の頭の適確、且つ正當なること、誠に評し得て首肯せしむるものである。我が劇作家協會の人々、――我國劇壇を一身に脊負つて起てる人々、それは老内田魯庵氏にさへ頭を下げねばならぬ功利主義者であるか。咄！自省せよ。（弘二）

「第四階級の文學」に就ての感想

宮島資夫氏著

この中に收められてある感想並に評論六篇、隨筆三篇は悉く最近に宮島君が新聞や雜誌に發表したものばかりではあるが、いま恁うして、一緒に集められたものを通讀すると、其處に宮島君の文藝上の主張なり態度なり、又は作風までも、大體に於て摑むことが出來る。

卷頭の「第四階級の文學」や、その次の「勞働文學の主張」などは、宮島君を知る上には、尤も好いものだと思ふ。そして勞働文學或は第四階級の藝術の解釋なども、適切に

説明せられて居る。餘りに常然なことでありながらも、今日でも尚ほ或一部のブルジョア作家乃至はその臭味を帶びて居る作家達は、藝術の世界に階級意識を持ち込むことを、又は、叛逆精神を吹き込むことを、許す可らざる藝術の冒瀆であるかのやうに拒絶して居る。かゝる作家達に對して、何よりも雄辯に階意闘爭の觀念を藝術の世界に持込む必要を否寧ろ避く可らざる事實として思つて居るのは、「第四階級の文學」中の卷頭第一頁から第六頁迄數頁の間に提供せられた、不正義極まる事實そのものである。僅かこの數頁の間に描かれた事實そのものだけでブルジョア作家どもの階級意識否定論を一蹴し去る事が出來る。暴虐なる事實の前に眼を閉じて、尚且ブルジョアの女子供どもの御機嫌伺ひの藝術(僕はこんなものに對して藝術と云ふ語を使用する事すら恥じる。これこそ眞に藝術の冒瀆であるからだ)を作つたり、お上の御用を勤める似而非學者批評家、小説作者があるならば、其人達は實に恐る可き勇氣の所有者か然らずんば低能兒である事を斷言する。而も藝術超階級論を得々と持ち出して、臆面もなく其文章に自己の名を署して居る人達の、如何に我文壇に多いことよ!この如き輩こそは宮島君の所謂「資本家が勞働者から勞働力を掠奪するが如く民衆から一切の知識階級的條件を掠奪して居る者である。是こそは眞に民衆に對する反逆者であり、人類進歩に對する邪魔者である。第四階級の文學を主張する者が、これらの反逆者であり邪魔者である所のブルジョア作家共に對して、階級意識を持ち、爭闘を開始しやうとするのは、常識すぎる程の當然さである。

それにも拘はらず、彼等ブルジョア作家どもは、藝術超階級論を一大發見のやうに擔ぎ出し、自らの鈍感と臆病とを辯護しやうとする。そして「プロレタリアは美を愛しない、善を愛しない、勞働文學は非藝術だ」と圖々しくもホザいて居る。

これに對して「第四階級の文學」の著者は、何人と反駁して居るかを聞くがいゝ。曰はくだ「彼等の有する資本主義的精神の根柢は、被支配被掠奪階級の根絶を許さない。彼等は常にその美しき外見の下に掠奪の爪牙を磨ぐ惡魔である。其生活に於ては、掠奪にのみ依る依他的でありながら、自己自身は常に他をして自己の權力下に虐んとする卑む可き利己主義者である。そこに何の美があり、斯る境地に生れた藝術に、何の尊重すべき點があるであらうか。」と云つてゐる。そして尚ほ引續いてプロレタリアの爲めには「彼等(プロレ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

タリア」は來る可き社會に於て、自己自身の幸福のみを希つては居ないのである。彼等は自己が脫した苦痛を他人に施さうとは思つてゐない。彼等の欲してゐる所は、萬人の爲の幸福である。彼等は今日自己と同じき大多數の人類から、人間的自覺を失ふまでに、その生命を搾取した反對階級の存在を呪つてゐる。『そして之等の階級的區別の消滅の爲に努力はしてゐるが、而も彼等はそれでも將來に於ける、その反對階級を自己の支配下に置うとは思つてゐない。たゞ彼等も自己と同じく各自の要求する勞働に從事せしむる同列の人たらん事を要求してゐるばかりである。そこでは他人の膏血を搾取して、自己の衣を染る事は許されないが、自己自らの力によつて、各人が各自美しく生くる事を欲してゐる世界である。今日のプロレタリアば長い年月の間、搾取され壓迫されて來た爲めに、餓え疲れ、そしてその眼は怨恨と憎惡の念に燃えてゐる。然も、それでもなほ且つ、彼等はその目標に於ては全人類の幸福を常に心に抱いてゐるのだ」と說き「これがプロレタリアの精神である、この精神を表現するものが勞働文學である、第四階級の文學である。」何れが美であり、何れが高貴であるか」とこの著者は思つてゐる。

僕は餘り長く宮島君の言を引用したかも知れないが、この引用した斷片だけでも、宮島君の主義主張は確かに摑める。そして僕はこの宮島君の主張に、正しき眞理を認めるものである。それにも拘らず、尙且つ自己の生活上の便宜の爲めに、この主張に反對とするものがあるならば、僕は其者の愚を嘲笑して「彼奴こそは耳を掩ふて、鈴を盜まんとする者だ」と云ふだらう。（亮）

讀んだ詩から

「早稻田文學」四月號の「時代の映射」の中にある「黑い風」は白鳥省吾氏が三月十五日の黑ずんだ夜の光景を歌はれた詩である。僕はその夜の人々の一人として白鳥氏が、あれによつて一種の寂しさを味はつた僕たちに生活の永遠を强く强く感ぜしめてくれたことを感謝する。僕は「黑い風」について多く言ふ必要を認めない。一つ二つ僕の胸を最も强くついた部分を拔書して見るだけで足る。そして、その夜のことを想出さう。

ああその內にこそ明るい灯がこもり
千餘の聽衆と溫かく
吾等の新しい時代の結合を語るべく

豐かな言葉が花さくべきである。

しかも吾等と共に貧しく不幸なる
……………
「安寧秩序を保つための勞働者」は
その扉の前に兩手をひろげ
あらゆる威嚇の暴言を吐き
サーベルを鳴らし鋼鐵をつけた靴の裏で
吾等の顔を蹴らうとしてゐる。
……………
春ながら黑いさむい夜風
私の帽子をも外套をも心身の健康をも
一切の所有を奪はうとするやうに吹く
しかも見よ、空いつぱいを飾る星
いつもより澤山のかがやく星
おゝ私はそれらと固く地上の樂園を約束する。

「黑い風」の詩人よ、貴下は藤森成吉氏と一緒に僕達の引さめたのを固辭して——あゝ溫い心の持主達よ、僕らには貴下等の心持がよく讀まれた——寂しくも闇間に滅しゆく姿を見送つてゐた者のあつた事を知るまい。あの時、風が少し激しくなりかけて「種蒔き社第一回文藝講演會禁止さる」のビラがバラ〳〵と音をたてゝ將にはげやうとしてゐた。

「赤旗」に詩を送つてくれる未知の友人たち、兄らの詩は「種蒔く人」に、新な空氣と混りない血を湧かせてゐる。僕は四月號の全體を通じて最も貴重な收穫の一つだと思つた。「種蒔く人」に新らしい生命を開いてくれた未知の人たち。同志たち、更に新らしき血と生氣を。（小牧）

『赭土に芽ぐむもの』に就て

中西伊之助氏著

一體僕は思想にしろ、藝術にしろ、總べて人生の眞理を知り、正義に味方するものは、一切が革命的なものであると思つてゐる。その思想にしろ、藝術にしろ、革命的な氣分を帶びてゐないもの、反抗的な精神を體現してゐないものは、悉くそれらは思想でもなければ、藝術でもない。それらは、思想の、または藝術の拔殼である。思想らしい、または藝術らしい假面を冠つた喰はせ物であり、鍍金である。そんな鍍金的文學が。横行濶歩する世の中は、實に危險千萬だ。宜しく「過激法案」を通過させて、非革命的、非正義的思想文藝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の撲滅を計らなければならぬ。もし、現在の狀態のやうに、非革命的、非正義的な文藝、享樂的な、駄洒落的な思想が、此世で何時までも幅を利かしてゐるなら、それは文藝の世界を滅ぼすばかりでなく、人類の生活をも滅ぼすに違ひない。否既に滅ぼしつゝあるのだ。早く吾々は、吾々の過激取締法案を制定して、斯る非人道的な、頹廢的な、泡沫的な思想文藝を、投獄しまたは死刑に處して、我愛する日本帝國とその人民を、泰山の安きに置く可く、努力しなければならぬのではないか。僕に云はせると――端的に云はせると、現在の世の中で「文藝なんかど、何だ」と云ひ度いのだ。吾々は、文藝に携はる前に、もつと手早くしなければならぬ仕事があるではないか。お前達の、とろんこな眼を瞬つて、お前の前に何があるかを見ろ、と云ひたいのだ。「文藝なんか、それから後のことだ」と云ひたいのだ。

永樂でコーヒーを喫りながら、「文藝春秋」が出來たり、富士見町の味ひや、東海道の一等寢臺車の豆洋燈のお陰で、出來る傑作なんか、日本の國になくつたつて、吾々は平氣だ。むしろ、そんな傑作が存在するだけ、吾々は世間樣に對して恥をかいて居るんだ。――恁う僕が書いて居たら、これを見た男が曰はくだ「恥をかくなら、まだ他に幾人もある。序でだから書い(かい)て置け、その一人は「吾が日吾が夢」の作者だ。女房に三味線を彈かせ、糸が上つたとか下つたとか、まるで場末の寄席の藝人みたいな事を云つて、三文雜誌の記者先生方を、呆氣にとらせてる男だ。此方は米の値段の上り下りなら知つてるが三味線の糸の上り下りなんか知るもんか。ところが、この糸の上り下りを知らなければ、デリケートな藝術とやらが、この世に生れて來ないんださうだ。況んや「吾が日吾が夢」のやうな最大傑作は、三味線の糸の調子を聽き分けない限りは、逆さになつて鼻血を出しても、爪先からも懷中からも出て來やしない。まだある、大道の洋食店で喰せるやうなのを思ひ出す奴だ。例のトンさ。自分では鯉の洗ひか何かの積りで、頗る通がつてゐるのだらうが、あれは名の如く何う見てもトンさ、トンカツさ。いくら空腹だつて、あんな作ぢや御免蒙るね。明日の朝の味噌汁の味を惡るくするからね。人間から賞められなくつても、此世の中に生きて行けるよ。その次が失戀聖書の作者兼モデルだ。神の如くに弱いお陰で、出す本だけは兎も角も賣るらしい。大分、金が溜つたらうと、或人が訊ねたら、そんな事は、まだ知れハセン(破船)と、答へて、その數日後に破船の原稿に着手したんださうだ。總て現代の大藝術家は、神(上の)で如

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くに利巧なんだ。まだ數へ立てれば限りがないから、これから後の數十名は、等等等……で十把一からげにして、何處か隅の方へ蹴飛ばして置くさ」。

僕はこの男の不遜な（その時は瞬間的にさう思つたのだ）語を聞いて、苟くも日本の大藝術家先生に對して、暴言を吐く奴だと、それでも一度だけは恐縮して見た。然しその瞬間に考へなほしたら、この男か狂人で、藝術家先生が正氣で、ゐるとは、何うしても思へなくなつた。寧ろその反對だと思つた。全くだ！ 寛にしろ、浩二にしろ 正雄や、淳や其他の等等等の者どもの作を見たまへ。これらこそ、正に危險人物だ、危險な保守思想、享樂思想、ブルジョア根性の小說や根性を臆面もなく、眞晝間天下に曝け出して、鼻紙の足しにもならないものを書き散らして、これが日本の藝術品で御座いと、大道で飴屋、やうに賣つてゐる。赤煉瓦の恐い伯父さん達に、內密でそつと知らせてあげるが、つまらない見當違ひに力瘤を入れないで、こんな危險な小說やごも引括つて、監獄に入れて置かないと、伯父さん達が飯櫃の種にしてゐる、日本帝國が土臺から引繰り返へる時機が來るよ。危い！ 危い！

議論が（こんなもの議論でも批評でも無いと云ふ奴があつたら、其奴は地獄の火にでも焦かれてゐるのだ）横つ飛に飛んで終つたが、實を云ふと、僕はこんな文藝批評なんか、苦痛な犧牲だ。こんな蛭一匹にもなつてゐない、お玉杓子の出來そくなひ見たやうなものを、文學だ藝術だなんて、世迷言を云つて居る程に、吾々は悠長なくらし方はしちや居ない。中西君には未だ一面識も無いのだが（その內何處かでブツ突るだらう）、一體、君は交通勞働組合の方が主なのか、それとも小說を書くのが主なのか？ 先年のストライキは、實に立派に味噌をつけた。あれ以上には味噌がつけられない程に典型的な敗北だつたナ。あれ以來、ウンともスンとも音沙汰を聞かずに居て、今回、突然に『赭土に芽ぐむもの』が出た。早速、僕は讀んで見た。面白い、實に面白い。神戸の住人賀川某の『死線を――』何とかした本よりも、僕は面白く讀んだ。『死線を――』が、全國津々浦々まで、大正不如歸のやうに讀れたと云ふから（日清戰爭後の帝國主義の日本に不如歸あり世界戰後の協調主義の日本に死線を――してがある。資本主義者の頭腦の明敏なること、神の如くなる事に、お目留められませう）この『赭土に芽ぐむもの』は、それ以上に賣るだらうと思つたら、案外賣行はよくないさうだ。こゝでも中西君は前年のストライキの轍を覆んだ譯だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

成程、この物語（僕は小說だとも、況んや藝術品だとも思つてはゐない。中西君だつて、そんなつもりでこれを發表しやしないだらう。廣告にあんな文句を使用したのは、發行人が君に無斷でやつた仕事と、僕は想像してゐる）は實に面白い、貧乏な新聞記者と、勞働者と官妓や日本の藝妓に取交ぜて、資本家の横暴、官憲の壓迫など、仲々面白く取組ませて、仕組んである。堺老が推賞したのも尤もだと僕も思ふ。然し、然しだよ、中西君。現代の輕薄な讀書兒は、賀川某や倉田某の甘さをこそ好め、君のやうな甘さは、決して決して好まない。君はこれを大に賣るつもりなら、「死線を――」や「出家と――」の如きサツカリン的低級さ、甘さに引下げて書きなほさなければ、永遠に駄目だ。それでなければ、前進だ！　飛躍だ！　こんな生温いものを書いて居ちや駄目だ。何百册書いたつても、賣れもしなければ、勞働者の血肉に喰ひ入つて、彼等の胸に反逆精神を吹き込むことも出來はしない。それなら、存在の必要はないんだ。中西君！　君は一體、右するつもりか、左するつもりか？？（亮謹記）。

「處女地」の創刊

此の頃新刊雜誌が幾らも出るが、出る雜誌も出る雜誌も男のものばかりで、女のものがない。男も女も人間としてこの社會に共存して生活して居る以上、社會上、男の方にだけ發言の自由と機會とが許されてあるものであつて、女にはそれが許されてないものだと云ふ制限はない。然るに從來の樣な有樣だと、この社會には、男だけが特別に、社會上に言葉の自由な發言權を持つて居る人間であつて、女は社會上、「發聲機關」と云ふものを持つて生れて來なかつたのではないかと、怪まれる程であつた。

斯う云ふ狀態に、若い女達が慊らない樣になつて來たのは、寔に當然の事だと思はれるし、又、男の方から云つても、何の雜誌でも何の雜誌でも、野郞ばかりが寄つたかつて、文句を云ひ合つてばかり居たんでは、何となく物足りない、と云ふ氣がするのであつた。若し文明と云ふものが自由なヴァバルの社會狀態を意味し、野蠻と云ふものが不自由なアンヴァバルな社會狀態を意味するものであるとするならば、男は從來、我が國に於ては、可なり文明な社會

に生活して居た人間であり、女は可なり野蠻な社會に生活して居た人間であると云はなければならない。

嘗て（十年も前の事であつたか？）「青踏」こ云ふ女の「社會的發聲機關」が現はれて、その頃の若い女が、「男女同權」こか「個人の自由」こか「女性解放」とか云つた問題や主張の下に、或は女の自覺を叫び、或は所謂「新しい女」の立場から、暴君としての男性に對して、性の鬪爭を試みたり、氣焔を擧げたりして、中々盛況を呈した事があつたこ記憶するが、その騷ぎが吹つ飛んでから、一時、女は社會的アンヴァバルに立復つたかと思はれる狀態に在つた。

所が、今その意味で、二代目の「青踏」こも云ふべき「處女地」が現れて、若い女は茲に社會的ヴァバルな狀態を復活させた。それは啻に女の方から見て、寔に結構なうれしい事であらうと思はれるばかりでなく、男の方から見ても寔にうれしい結構な事である。

男の方から云つて、男が女に――就中若い女或は處女――に、社會的に、話しかける樣な機會は、この廣い世の中に、男に對し、社會に對し、或は自己に對して、樣々な思惑や感情を發言したいと思つて居る女は澤山あるであらうのに、極めて尠い。細君とかお袋とか姉妹とか云ふ關係を持つだ女以外の女に、男が女こ話す樣な機會は甚だ尠い。それが「處女」こ制限されるこ、尙更尠い。恐らく、戀でもする場合を除いては、得られないと云つても好い位だ。處女でなければ、女郎でも藝者でも、自由に男の話相手になれる女は幾らでもある。併し、女郎や藝者の言葉は、男に「買收された女」の言葉であるから、處女の言葉ほご、純粹でもなければ、無邪氣でもない。純で無邪氣で、男に「買收されない女」の言葉があるとすれば、それは處女の言葉である。恐らく、ごんな男でも、處女地から出た處女の言葉を聞きたがらないものは一人もあるまいこ思ふ。それが正眞正銘の處女の言葉であるならば、それを聞く爲めに拂ふ五十錢はプロレタリアこ雖も決して高いものではあるまい。と云ふ事は、この雜誌「處女地」に書いて居る女の人達が、皆處女だから（と保證して）、男は奮つてそれを買ふべしだこ、廣告して居るのではない事は勿論だ。雜誌の定價は五十錢でも、處女地の言葉が名の如く、買收されない女の言葉ごあるならば、五十錢は安いものだと云ふ事だ。ほかの有ゆる女の言葉は信じられないでも、處女の言葉は信じられて好い筈だ。それほご汚れない、何物にも毒されない純な眞直ぐな言葉が處女の言葉であるとすれば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五十錢でも買つて讀むのは、實は勿體ない位だ。況んやそれが新時代の新しい女性を代表する處女の言葉であるに於てをやだ。それにしても、さう云ふ無垢な處女の言葉でさへ、賣買の手續きを經なければ、僕等の手には入らない世の中だからうんざりする。

處女が言葉を賣ることは即ち處女を賣ることである。處女は言葉を賣ることに反抗するものである。若し「處女地」の人々がこの言葉を賣ることに反抗しなかつたならば、あなた方はもう已に純粹の處女ではないと云つてしまつても好いのである。と云ふ事は、今の社會制度では、男に言葉を賣るものは、獨り賣笑婦ばかりではないと云ふ事である。だから、若しこの「處女地」の人達が今の社會制度を是認し或は肯定した氣持で筆を執り或は斯うして言葉を賣つて居るならば、あなた方は已にその氣持に於て處女でない事を證明して居るのである。たとへ肉體に於て處女の誇りを保つて居ても、その氣持がさうでなかつたら、處女とは云へない。若し言葉を賣ることが許されるならば、肉體を賣ることも許されなければならない。

不幸にして、私は「處女地」の人達から、この現社會制度に對する徹底的懷疑或は憎惡——否定的精神或は反抗的氣分の言葉を聞き得なかつた。それで何の爲めに文章を書くかと云へば、藝術の爲めにとか、宗教的生活の爲めにとか、愛の結婚の爲めにとか、強くなりたい爲めにとか云ふのである。いづれも結構な要求であるにしても、さう云ふ要求は實につまらない要求である。只、さう云ふ事を云つて居さへすれば好いと云ふ氣持丈しか感じられない。今の社會制度をそのまゝにして居て、どんな要求や希望や憧憬を表明して見た所で、それはあなた方の嫁入り前のほんの一時の氣休めに過ぎない。一度嫁入りするか、職業婦人となるかした時、あなた方が自分の過去を振り返つて見る時「あの頃は樂しかつたわ」と云つた追憶の材料にはなるにしても、それがあなた方をして、現實の上に幸福を築き上げる力と爲り得ようとは思はれない。あなた方があなた方の崇拜して居るであらう樣な文章家になり、或は藝術家になる爲めに、文章を書き、或は藝術をやつたりするほど下らないものはない。今の社會制度を肯定して文章家になり或は藝術家になる者は、資本家の奴隸たることを肯定する者であるから、初めつから問題にならない。資本家の奴隸となる事を肯定する者が、何の必要あつて、文章を書き藝術をやらうとするのか？資本家の奴隸たる事を肯定する所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に藝術はない。資本家の奴隷たる事を肯定する位なら、男子の奴隷たる事を肯定してしまつても好いではないか？資本家の奴隷たる事は肯定するが、男子の奴隷たる事は否定すると云つた氣持で生きて居るセルフィッシュな女ほど仕末に了へないものはない。

愛の結婚とか自由の結婚とか云ふものは、寔に結構なものであるが、今の社會制度が儼存して居る限り、それが實現は永久に絶望であるから、先づ、そんな事は口を酸つぱくして云ふ丈野暮である。それを好い氣になつて騷ぎ立てたり、隨喜したりするのは、あなた方の世間知らずのお孃樣氣質か、甘い戀愛小說に醉つぱらつた加減かである。せいぐ\進步した所で、エレン・ケイ位の程度のブルジョア道德に感心してしまつて居るからである。稍々低級な所になると、倉田百三位のセンテメイタリズムに誤魔化されてしまつて居るからである。

こんな風に全體的な云ひ方をしては、餘り効き目がないから、本來ならば、もつと具體的に個々の筆者に就て云ひたかつたのであるが、生憎感心したのが一つもなかつたので、止むを得ない。大部分は新しい女の聲として耳を傾けるに足りなかつた。十年前の「靑踏」の方がもつと反抗的氣分に富んで居て、淸新な感じを與へられたと思ふ。新時代の新女性はもつとブルジョア感情とブルジョア意識の生活から目覺めてほしいものだ。「處女地」の人々は、餘りにブルジョア文化に毒された女性に依つて滿たされて居る

さうした中に、之はと思つたのを、强ひて取り立てゝ云ふなら、池田こぎくさんの「時代の要求する『新しい女』（未完）」と、新田包子さんの「學窓より」と位のものである。この二人の書かれたものに就ては、もつと詳しく云つて見たい興味は持つて居るのだが、今は遺憾ながら、その餘暇を持たない。池田こぎくさんのは、いづれ全體が發表になつてからのことにしたいと思ふ。どうも、餘り大ざつぱな批評に終つてしまつたが、「解放」五月號の「女流敎育界の人々」を參照して下さつたら、私の心持はもつとよく分つて頂けることゝ思ひます。（光造）

映畫「心の眼」

電氣館上映

バーム、ガーデン料理店内は歡樂の香に醉ふ紳士たちで滿たされてゐる。マルヴィン判事の見惚れてゐるのは、ご

こか上品なところのある踊り子、グローリア、スワンの美しい姿である。

判事は一きわあざやかなその踊りと、あくまで男の心をとろかす笑顔に魅せられたばかりではない。何となく純眞な處女らしい點が、判事の心を惹いたのである。

エルシー、ファーガスン孃の扮してゐるグローリアは、その夜の踊りも濟んで、ほつとした氣持で夜の街に出る。仄暗い夜空に、點々こちらばつてゐる街の灯――。「先祖からこもされて來た灯を、今自分の代で斷やしてはいけない」かう氣がつく。結婚を思ふ、子供を産むことを考へる。宿屋に戻つてから、判事と結婚した場合を想像すると、物質によつて得られる飽くことのない慾求に夢中で驅りたてられる。そして判事との交際は始まる。

すると、戰爭で不具になつた盲目の青年に出會して、彼女は同情の涙にくれる。判事との結婚を捨てゝつひには盲目の青年に對する愛に生きる。

「あなたの肉眼が見えなくても、二人の間に生れた子供の眼は見えます。地の鹽であつたあなたを、心の眼は完全に見てゐます」

軍國主義の犧牲になつた青年に對する最後の慰めの言葉である。これがまた此の映畫の主題らしい。

「地の鹽」の原作を知らない私には、イーヴ、アンセルの脚色がごこをねらつたものであるか、あきらかな言葉で言ふことは出來ないが、たとひ主題はごこにあらうとも、脚色そのものゝ失敗が此の作をすつかりヤマカン物にしてしまつたことは爭はれない。第一には、エミル、ショータール氏の監督がなつてゐないことである。五巻でまごまりのつかない筋を、無理に結末へ急がして手つ取り早く目出度し〳〵にしてしまつてゐる。

先づグローリアが、判事との結婚を夢みて幸福の幻影を辿ふあたり、幻影の描寫に少しの苦心も創意も見えない。グローリアをかたわらに置いて、幻影の描寫と同時に心持の變化を表情で見せるならば、幻影の描寫は絞出しか、或は黑バツクへ浮出させた方がごんなに効果があつたか知れないのである。それから、盲目の青年をはじめて畫面にあらはすに甚しく唐突であり不用意である。まるきり端役のやうな取扱ひをうけて畫面に出てくるではないか。それだから、グローリアが如何に同情の涙を流したとて、觀客はグローリアの持つ十分の一の同情もその廢兵に持ち得ないのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

エルシー、ファガスン孃を賣るにばかり急で、副主人公がほんの景物扱ひにされてゐるのも、此作の失敗の一つである。

大概の米國映畫は、女優一人を賣らんが爲めのこけおごかしで中味のからつぽにあきれるが、此の映畫もそれに洩れない。

あまりに表面的な氣分本位で、まるきり全體としての統一がない。かうした映畫こして最も大事な全體の底を流れてゐる感情の統一を缺いてゐる。ガサツで、散漫で場當り本位がアートクラフト映畫の眞價かと疑はせる。

次にエルシー、ファーガスンの演出に就て言ひたい。グローリアは飽くまでも寂しい影を持つた無邪氣な處女としてうごくところに失明兵士への、純愛と結婚がうなづける。ところが肉事の財産と位置に依つて虛榮の夢を描く時、その慾望に燃えだ最後の表情は、いさゝか誇張に失したので純眞であるべき彼女の心持をすつかり醜悪なものにして了つた。それがため肉事に對する心持から、廢兵に對する心持への移動が、しまひまではつきりしない。事實彼女の虛榮が根深いものであつてはいけない。假りに全部的な慾望を物質に感じたとて、無邪氣さを失つてはならないのである。この純眞が一貫してこそ、彼女の心持の變化は少しも不自然でなくなるのである。

つまり自分の行爲を反省に依つて左右するやうな女に描かれてはいけないのである。

しかし、エルシー、ファーガスンは此の映畫で二つの成功を見せてゐる。

廢兵に對して性的に燃える欲求と、不具に對する愛撫の感情とをあざやかに見せて抱擁するあたりこ、異性を知つてからの、幸福感に滿ちたあたゝかな表情とは、かなりはつきり出てゐる點である。

とにかく、かうした映畫は、軍國主義に對する犧牲の讃美である點に於て、私たちの本心からは一顧の價値もないものである。幸ひにして私たちは資本家や軍國主義者からは不具者扱ひにされてゐる。それだけ心の眼が開いてゐる。幸ひにしてグローリアのやうな美人から同情はされない。同情なんて言葉はこつちからお斷りである。

此の心の眼などは、軍國主義の御用振りを遺憾なく發揮してゐる點で特筆すべきものだらう。軍國主義者よ。資本家よ。なか〳〵御上手なこだ。勝手に不具者にして、畫面にうごくだけの美人をあてかつて、戰爭で不具になると美人に惚れらるぞ——こ宣傳してござる。

なるほご、孤獨なものは、割引を待つてゐてまでも、そのフイルムの美人を見に行く世の中だから無理はない。四、九日夜(賢三)

社會主義講座（一）

本講座は、科學的眞理と歴史的經驗に基いて、一切の「社會主義」を、出來るだけ簡易、平明に紹介し說明し、同時に讀者諸君と研究を共にしやうとするもので有ます。

一　空想的社會主義と科學的社會主義

一八八二年、ボオル・ジャネは、或る書籍の中で「社會主義は定義の仕難く反駁の仕易いものだ」といふ事を云つた。實際一個のブルジョアにとつて、社會主義は論議はされても解されにくいものである。之を定義するには單に數個の言葉のみで足りるものではなく、主義の本質を究めて始めてなされるものである。

第一の混同は、社會主義を平等主義と同一視してゐる事である。富の平等の分配――これが反對論者の抱く社會主義の概念であり、而してかうした理解の下に彼等は幾多の皮肉を浴びせてゐる。總てのものは等しい。社會的にも自然的にも何等の差別的狀態を有しない――と之れが世間一般の考へ方である。

だが諸君も知つての通り、こんなのが吾々の所謂社會主義ではない。吾々が萬人同等の權利を有ち、生れたものが出發點として、又發達の條件として同一の狀態を享受しなければならぬと考へる事が、どうして自然がいさゝかの差別も創らず、萬人が絕對的に同一の機能を有してゐると考へる事になるだらう？　この事はあとで社會主義の流派及び理論家に就て述べる時に改めて云はう。

第二の混同は、干涉主義（interventionism）と同一視する事である。國家は屢々所有關係を整理する爲め等で干涉政治を行ひ、之を社會主義と呼んでゐる。英國の一國務大臣ウイリヤム・ハルクールトは一八八八年、以上の樣な意味から「吾人は今日總て社會主義者である」といふ樣な事を云つた。彼は之によつて「吾々はもう Laisser faire の信條を放棄した」といふ事を云はうと欲したのであつた。曾つて自由放任主義の思想では世界の幸福、世界の調和は個人的努力によつて作り出されると考へたのであるが、この信條は消えて了つた。ブルジョア自身も之れは認めなければならない事である。さればこそ彼等はこの "Laisser baie,"（なすにまかせる） Laisser fasser"（ゆくにまかせる） の信條を捨てたのであつた。而も十八世紀の最初のテキストではこの言葉は別の意味をもつてゐた。

「Laisserfaire, Laisser passer」ではなくして「Laisser nons fair であつたのを、最も特徴あるこの「吾々」と云ふ一語をつけおこしたのであつた。ブルジョアは、經濟的絕對自由——商業の自由、絞取の自由——を要求した。そして、これらの絕體自由から世界の幸福が生ずる事を殊に承服させやうと努めた。これが社會主義を干涉主義と混同するに至つた所以である。

第三の混同は革新主義と同一視する事である。即ち誰かゞ部分的な改革や、社會の革新に贊成でもするとそれで社會主義者だと思ひこむものがある。自分は敢ていふ巨大な財產の一部を裂き、病院を建てたり僅かな寄附をしたりして自ら主義者と思ひ又そんな事を口にする所謂博愛家の事を云ふのではない。たゞもつと廣汎な一カテゴリー即ち、現存社會の基礎を保存しつゝ、あらゆる社會的改革や勞働法の立派に社會主義的色彩を加味しようとする一團に就て云はうとしてゐる。而してこれもまだ社會主義者ではないといふ事を自分は諸君に證言しやう。

實際、現今の少し眞面目な政治黨派には部分的な改革派でないものはない。それは現存社會を保ちその基礎を堅くするためにしろ、博愛主義からまたは慈悲心からにしろ更に又過激な革命をさける爲めにしろ最後に社會及び勞働の革新のためにしろ悉く然りである。だが例へどんな黨派に屬して居やうが、之等社會改造家は皆社會主義者とは考へる事が出來ない。

以上社會主義と云ふものゝ間違つた考へ方を並べて來たのであるが、偖て正確に之れを定義する爲めには先づ社會主義は實際上からもまた敎義上からも兎に角個人主義とは矛盾するものだと云ふ事を云はねばならない。

ソシャリズムといふ言葉はラテン語の Socius といふ言葉から來たので之れは仲間若くは友達といふ意味である。此の言葉は一八三七年ロバート・オーエンによつて始めて使用された。次に一八三八年佛蘭西でピエール・ルルーの中に見え、又二年程おくれて、レイバンによつて一八四〇年に出版された有名な「現代社會改革者」の中に「近代のソシャリスト」といふ別稱の下に用ゐられた。この近代のソシャリストといふ名の下に、彼は今吾々が空想的と呼んでゐる三人の偉大なる先驅者即ちロバート・オーエンとサンシモンとフーリエとを擧げてゐる。

前述の如く社會主義は個人主義とは相反馳するものである。從つて社會をはなれて人間は眞の人間たり得ないと考

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へてゐる。人は社會の中に於てゞなければ完全に生長し實在して行くものではない。社會主義の概念は孤立した人間個人的自我主義を基礎としない。社會的利益に通ずる個人的利益といふものが土臺となつてゐるのである。反對論者の言ふ如く社會主義、共産主義は個人と社會とを全く相反したものとは見てゐない。却つて眞の個人的利益は社會によつて、又社會の中にあつて始めて實現されるものと考へてゐるのである。

吾々はまたいくらかの例證を引かなければならないが、先づ個人主義の代表者として、ゲーテを擧げる。彼れはかの資本家的利己主義たる個人主義の概念を次の如く語つてゐる。尤も社會主義と云つてもサン・シモニズムの概念しか知らないのであるが、彼は之れに向つて。

「このサンシモニヅムの定理は實際的な所が少く、甚だゆるず可からざるものである。自然や、數世紀來の事物の進歩や經驗とは矛盾してゐる。若しも各個人が各々己れの任務を盡し己れに近き行動圏内にあつて誠實と努力を以つて事を爲せば社會の總體はうまく行くであらう。自分は作家の生活を送りつゝあるが、決して國民は何を欲してゐるとか、如何樣に社會に仕へたものであらうとかいふ事は考へた事がない。たゞ自分の努める所は、精神を聰明にし、自分自身を向上させて、自分を豐富にし、研鑽によつて善と思ひ眞と悟つた事柄のみ口にするのみである。

而も、これがやがて總體の上に影響を及ぼして、遠く大いなる社會にまで役立つて行くのを自分は認めた。だがこの事は決して自分の目的ではなかつたので、單に一個の結果に過ぎないのである。……兎に角自分の信條は、一家の父は家業を、職工は己れの仕事を、司祭は隣人の愛をはげみ、警官は吾々の快樂をさまたけないといふ事でよい」と。

個人を總ての基礎とする事は、もつとも典型的な個人主義の概念である。これにあつては社會は、秩序といふ一つの機關しか有つて居らぬ。警察も己れの利益をはかる個人をさまたけてはならぬ。然してこの協力から——各自己れの爲めにといふ原則をもつた個人の行爲が協力と呼ばれるのであれば——ゲーテの望んだ樣な、又總ての自由經濟主義者が望んだ樣な社會的幸福、一般的幸福が生ずる事であらう。

偖て之れから吾々は、以上の個人主義概念に對立させて、ゲードの共産主義の概念を述べやう。ゲードは社會の中に於ける個人の役割に就て以下の樣に云つてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「人間は己れの仲間の援助を受け、己れの社會の中に於てゞなければ人となる事は出來ない。孤立しては、人は己れの欲求を滿足させたり、機能を、極く限られた或程度以上に發達させたりする事は出來ない。どんなに他の場所で進歩して居やうと、たゞ自分一個の力では、人間は自然の洞窟や木葉や毛皮以外には住居も衣服も得られないであらう。他の生物では、孤立してゐても、要求の滿足はさまたげられる所か却つてもつと完全に容易にそれが得られるものである。だが人類にとつて社會的集合の狀態は自然な、必須な根本的なもので、宛も孤立狀態が他動物にとつてノルマルなのと同一である。」

實際言葉――舌はあらゆる新たなジエネレーシヨンに取つて智惠と經驗の大いなる寶であり遺産である――でさへも社會的生活の所産に過ぎない。人類學上よく例證に引かれるカスパール、ハイゼルは獨逸で三四十年の間王位につかせないため人から隔離させられた人であるが、この人は遂に白痴となつた。彼は話す事も知らなかつたし、また周圍で話される事も分らなかつた。されは社會生活は人間の創造主である。その幸福の爲めにも又進步の爲めにも缺くべからざるものである。猶ほこの基礎的觀念に就ては後に述べる事があるであらう。

以上は社會主義が個人主義と反馳する第一の點である。

社會主義もしくは共產主義はまた、黨派及階段の集合行動の最終目的として定義され得る。その窮極の目的は生產機關の共有である。種々の社會主義、共產主義の言葉をしらべる時、吾々は同じように生產と消費との分配關係に就て云はなければならないであらう。然し最近の共產主義の基礎となつてゐるのは社會化といふ事である。即ち共同處理、換言すれば生產者、生產機械、土地、地下、工場、鐵道、鑛山と言つたあらゆる集合的勞働の機關一切を社會の處置に委ねる事である。

社會主義はまた階級の運動殊に無產者の運動として解される最近の社會主義運動が語られる時、人は常に階級の運動、プロレタリアートの運動、勞働者の運動を口にする。これ等は部分的な改善ではなくて最後の目的の實現を企圖し、個々の困窮に對する對策ではなくして、あらゆる生產機關の所有を企圖しての運動である。勞働者階級若くはプロレタリヤートは、己れの生活難の原因を之によつて除去し、社會全體に即ち人類全體に能ふ限りの大いなる幸福を保證せんとするのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會主義或は共産主義は又過去に實在した歷史的事實として考へられる。多くの社會が換言すれば多少開けた民族の大多數が、原始の時代の主要な勞働要具であつた土地の共有時代を去つたのは、近世科學の結果である。多少の例外はあつたにしても、人類が數千年の間生活し得たのはこの共有即ち幼稚なる共産主義のお蔭である。反對論者が空然こ考へ、單なる劃策、個人的な考案、ある人々の幻想こ考へてゐる事は人類が數千年間生活し來たつた歷史的事實であつたのである。

社會主義は同時に思想の一體系であり、一個の學說である。近代社會主義は一個の哲學を有つてゐる。道德をもつてゐる。法律を持つてゐる。そしてあらゆる舊い概念を眞底から覆へした。新たなる社會に適應するのは、新たなる哲學、道德、法律である。之は後への宿題にして置かう。

その前に、自分は社會主義が現在の狀態に到達するに經て來た階梯を述べる事にする。之れには二個の階梯があつた。一つは空想的社會主義で、他は科學的社會主義である。先づ空想的社會主義から論じて見やう。

(つゞく)

世界新聞雜誌展覽會

大同洋行書籍部では來る五月八日(月曜日)から、同月十五日迄日本橋加島銀行ビルディング四階同洋行書籍部に於て、世界各國新聞雜誌の大展覽會を開催する相だ。聞くところによるこ、極めて多數の諸方面に亘る、新聞雜誌が集められてあるこのことである。就ては此の際讀書子の參觀をおすゝめする。會場にて豫約の申込に應ずる由。

世界欄

ナンセン會見記

問『飢饉地の精確なる範圍如何？』

答『飢饉に陥れる地域は、稍々佛蘭西より大にして人口少くとも三千三百萬人を算す。三千三百萬人中一千九百萬人は死に瀕せるものにして今や死は全てを盡はんとす。今にして奇蹟起らずんば八百万人の餓死を免かれず。』

『多少の個人的慈善事業あるが故に、今日に於てすら、死亡率は低下を示せども、こは固より問題の核心に觸るるものに非ず。人民の困憊其極に達し、その食するパン――これをしもパンと云ひ得べくんば――の如きは諸種の骨及馬糞を以て製す。否、事實は今一層險惡なり。骨肉相食むが如き、埋屍を發掘してこれを食せるが如き事件の往々見るを如何せん。

『右は一箇月前余の實見せし處なるが、今日は恐らく其の比に非るべし。狂暴なる飢饉に依り、宛然此の世の地獄に陥れる彼等人民は人間的感情を失ひ、各人相殺戮の慘を現出す。余は何故に、此の如き云ふに忍びざる慘狀を大膽に諸君の前に語るや、蓋し余は、歐羅巴の人民にして此事實を知らば、最早一刻もこの悲劇を繼續せしめざらん事を信ずればなり。』

問『飢饉の原因は全然旱魃に歸すべきや！』

答『飢饉の原因の九十パーセントは直接昨夏の旱魃(そは勿論一昨夏のそれに歸すべし)に負ふものなりと云ふも全く不可なし。其につきては何等疑ふべき處なけれど、右原因同樣、他の諸原因をも考慮に入れざるべからず。

『諸君は記憶せん、ヴォルガ地方の甚だしく諸種內亂によりて壞廢せられしこと、並びに該地方は一時コルチナツク一派の手中にありし事を。其期間耕作は到底行はれず。蓋し軍隊横行し濫りに穀物を徵發せんには如何で耕作を進むるを得んや。更に又、吾人は、諸戰爭の一般的影響をも認めざるべからず。蓋し平時田圃にありて耕せし、若き活動的壯丁の多くを戰爭の爲め失ひたればなり。更に又最後に、露西亞に對する封鎖をも重視せざるべからず。農具は數年間移入せられず、且つ又古き農具は使用に堪へざるなり。到る處、農民は最も原始的耕作に逆轉しつゝあるなり。

『右の如き諸因相合して今日の怖るべき狀態を現出しつゝあるが、前述の如く最も重大なる原因は旱魃なりと云はざるべからず。』

問『飢饉はソビエットの支配に原因せりとは眞なりや？』

答『否々、そは事の眞相に非ず。飢饉はソビエットの支配に由れるに非ず。』

問『貴下の經驗より推して、ソビエットの態度を如何と見るや？ 飢饉地方救濟に對しソビエットは全力を傾注しつゝあるや？』

答『ソビエット政府は、現に、擧々として恢復に努めつゝあり。爲し得べき事は凡て爲しつゝあり。地方當局者も亦、全力を傾倒して死と戰ひつゝあり。されど他に力を仰ぐに非ずんば效なけん。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「巷間、食糧品のロシア輸送中、失はれしものありと傳ふるものあれど、こは當らず。食糧品分配の一切の仕事——余の關與せる諸種の團體については——は直接、吾人の監督の下に遂行されたり。ガルビン氏——英國大藏省官吏——は吾が監督主任なりしが、如何に些少なりとも苟くも輸送食糧品にして紛失せるものは、ソビエット政府は、ロロドン諸銀行宛の爲替手形を以て完全に償ひたり。

「救濟列車はソビエット政府により吾人の自由使用を保證されたり。されど、主として石炭缺亡のため輸送の遲々として進まざることは言を須たず。機關車は薪を燃料としつゝあり。げに、今や石炭は食糧と共に重要なり。されど多くの村落は鐵道沿線より五十哩も奥にあり、加ふるに、道路にては殆んど輸送し得べからず。馬匹は、飼料の缺亡のため死し、或は村落にあつては馬匹の影さへ見ざるものあり。駱駝は飼養上簡易なれば用ひらるれどこれ又死に瀕しつゝあり。」

問「對應策如何？」

答「何事にても爲し得べき事は、即刻實行せざるべからず。個人的慈善事業は根本的解決に非ず。慈善金總額百二十五萬磅に達せし事は事實なれど前述の如く飢えたるもの三千三百萬人あり。一人命は十二志を以て救はるべし。一人當り十二志あらば、即ち、五月末まで持ち堪へ得べし。もし直ちに着手するならば、五月末までに、六十萬噸の穀物を輸送し得ん。されど、その時は更に左の難問に當面するならん。即ち、「輸送せる食糧品全部を人民の食糧に供すべきや？——こは春の播種に對し何等の準備せざるを意味す——將又穀物の一部分を播種のため保存し而して人民の一部分をこれが爲め餓死せしむべきや？」

「何れの方法を採らんとするも、幾百萬の犠牲者を出さざるべからず、何となれば、もし彼等にして、播くべき種子を手にせざる時は來年度の飢饉は層一層怖ろしきもあらん。」

「この事たるや正に列强政府の處置すべきものたりしなり。もし列强政府にして、昨年九月訴へしものを與へ居りし乍らば一千九百萬人は救濟せられたりしならん。(今日になりて如何なる手段を以てしても到底手遲れなり。)

「四ケ月の遲滯は八百萬人の死に値す。一ケ月に二百萬人の死に値す。」

「アメリカ政府は已に二千萬弗の寄與を可決せり。更に三百萬磅あるならば、恐らく現狀を救ふに足らん。されど、こは、政府にして始めてなし得べき處なり。……」

「ロシアは、大なる穀物生産國なり。この國にして播種を行ひ得ずんば、そは一箇の砂漠と化し去らん。これ即ちロシア自身の窮乏のみならず、歐洲全土をして悲境に陷し入るゝものなり。」

問「貴下は新聞紙上に於てロシア救濟中止の計劃あるを知悉せるならん。これに對する貴下の御感想如何？」

答「予は此の如き筆者に對しては、余のクイーンス・ホールの會合の席上に述べし事を繰返すのみ。即ち彼等は最も恥ずべき虚言を敢てせるものなりと。蓋し彼等は、余に關し、ソビエット當局者に關し、且つ又、列車奪略に關し虚言を吐けるものなり。彼等は吾人の事業を妨害せるものなり。彼等の虚言によりて彼等は幾百萬の死に對し責任を有するものなり。……

「この種の怖ろしき妨害運動あればこそ、益以て新聞紙は飢饉の眞相を明にするを要す。余は、力めて種々の會合に於て述べんとするも固より各地、各人に述べるを得ざれば新聞紙こそこの缺を補はざるべからず。」

以上は最近、ナンセン博士と英國共産黨員(C・P・G・B)との會見の際の要領を紹介したのである。ナンセン博士は勿論ブルジョア出だ。今まで彼の發した種々のアピールを見ても、その根底をなすものは彼の人道的精神と歐洲の經濟的復活と云ふ功利的な政策的な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見解であるが、僕たちの周圍はどうだ？　僕たちの目的はどうであらうとも、飢饉救濟を期待し得るか？　僕たちの政府は個人的、同情的飢饉救濟すら許して居るか？　ノ！〳〵だ。然らば僕たちはどうすればいゝのだ？　お互に確つかり考ふべき時だ。

因に第九回全露ソビエット大會はナンセン博士に對し下の如き感謝の決議をなしてゐる

『第九回全露ソビエット大會は、ヴォルガ地方の破滅に瀕せる農民を救濟せんとする貴下の崇高なる努力に對し、露西亞社會主義聯邦ソビエット共和國の幾百萬の受難者の名によつて、最も深甚なる感謝の意を表す。露西亞の民は、偉大なる科學者にして探險者たる市民フリトヨツフ●ナンセン――默々たる北方の久遠の氷塊を勇ましくも衝き破りたるが、而も資本主義的列强の、底止する處なき野蠻性、貪慾性、並に冷酷性を打ち破るを得ざりしが――の名を永久に紀念せん。』

子供の國際的教育

ロンドン、ホワイトチャツペル、フィールドゲート六二番地、フェルラー近世（モダン）國際（インターナショナル）學校（スクール）の童兒（自七才乃至十四才）達は昨年十二月より雜誌を發行した。雜誌は全然子供達によつて書かれ、且つ發行されてゐる。この雜誌によると、昨年十二月、勞働大學の學生達がピーター●クロポトキンの生涯に就いて、又、古代共産村落體に就いて、更に又、イソツプの物語に就いて講話をしてゐる。尙火曜の夜七時よりエスペラントの講習があり、更に今年一月には音樂會を開催し、序でに、メーテルリングの『靑い鳥』を演出することになつてゐた。或る生徒が、學校に就いて下の樣な事を書いてゐる。

『今日の有樣では、私はどうしても小學校に入らねばなりません。所が、不幸にして、私は小學校が嫌ひです。

『小學校の仕躾は大變きびしいんです。私達の近世國際學校にはとても見られません。私達は自尊の念を以て規律を守つてゆきます。即ち私達は、先生達が默つてゐて下さると云ふので決して暴れるものではありません。先生達が默つてゐて下さると云ふのは、先生達が私達に對し手を擧げないと云ふことです。

『近世國際學校は粘土細工、天文學、自然科學製圖等全然、自由に敎へて呉れます。

『普通の學校では、私達は、愛國者であれと敎へられてゐます。併し近世國際學校では、私達は自由の愛護者であれと敎へられてゐます。』云々

此の學校は、大部分、クロポトキンの影響を受けたといつてもいゝ。僕達は其の點に於てクロポトキンの敎育方針に贊意を表する即ち僕たちは、もつと〳〵頭と手の仕事を調和させなければならない。僕たちの仕事が永遠的であればある程、僕たちには少年少女の爲めの眞個の學校が欲しい。學校が出來なければ、せめて少年少女の爲めの眞個の雜誌でも欲しいと思ふ。僕たちは此の方面に對し今後必ず何かするつもりだ。

「新神聖同盟」の活躍

『怪物が全世界を惱ましてゐる』――共産主義の怪物が。舊世界の凡ての權力はこの怪物を退治するために新神聖同盟を結んだ。ロイド●ジョージも、ポアンカレーも、ノスケ一派も、ホルテイも、ゴンパス一派も、ファスツイ・スティも、國粹會一派も。』

（英吉利）アルベルト●インクピン（英國共產黨領袖）は今年一月、六箇月の禁錮を食つた。理由は種々あるだらうが、要するに彼が共産黨のゼネラル●シクレタリであり、マクマヌス等と共に黨の有力者たの爲だと解するが眞に近い。究極は共産黨撲滅のためと思へばいい。インクピン事件の一週間後、同じ共產黨員のスウェーン、リグビ、ボゴット、の三人が投獄された。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(獨乙) マスローとフデイツヒの二人が伯林で逮捕されたが其後杳として消息がない。

(羅馬尼) 一月廿四日、三百人の共産主義者が軍法會議に附せられた。

(ユーゴ・スラブ) 一月二十五日、三十六人の共産主義が叛逆罪に問はれて審問に附せられた。

(芬蘭) 一月廿六日、芬蘭共産黨の執行委員と黨機關紙の發行人が逮捕され叛逆罪に問はれた。

(瑞西) 「民主的」瑞西議會は一月卅日、ハーベルリン法案を通過した。云はずと知れた共産黨撲滅案である。

(墺匈國) 一月十九日、ホルテイの最後の犠牲者、ユリウス・エンギイが絞殺された。

(伊太利) フアスツイステイが又活躍しだした。ボログナ、フエルララ、ロヴイグノ、ミランの諸地方は隨分荒され勞働者の殺戮に遭つたものも尠くない。犠牲者の中には有名な社會主義者アテイリオ・ボロダンがゐる。彼はクレモナ縣會議長だ。昨年十二月十二日慘らしい死を遂げた。フランツエスコ・ミシアノは大多數を以て共産黨代議士(トリノ議會)に撰ばれたが、政府の壓迫で常に出席する事が出來ないので、カルロ・ガグリアヅロを代りに立てた。

(アメリカ) デツプス外二十名がクリスマスに釋放されたが(I・W・W員にして詩人著述家なるチヤーリ・アシユレーも釋放された)まだ百人程殘つてゐる。中には二十年刑十年刑のものも可成りゐる。彼等は戰時法に引かゝつた人達だ。釋放運動はまだ連けてゐる。因みに、さすがの政縣もトム・ムーネやザツコヴアンゼテイ達の處刑を躊躇してゐる樣だ

(印度) ガンデイが逮捕されたが、ソモソモガンデイ一派の國民運動はまだ〱不徹底な曖昧なものだ。眞個のプロレタリアの運動の起るのも遠い事ではあるまい。

(ニホン) コクスイカイの内部すら、ゴタ〱があるから面白くない。

無政府主義者の抗議

アレキサンダア・ベルクマン、エムマ・ゴルドマン、エ・シヤピイロ達はロシアで投獄されてゐる無政府主義達のためにアピールを出してゐる。昨年十一月一日夜より二日にかけて萬國無政府主義者全露支部の連中が逮捕された。其の中には幹部アスカロフやシヤピイロやシムチン等の幹部連中もゐる(之より先きバルマツシステイゼンケ達は囚はれてゐる)アピールによると彼等は食料に缺亡してゐるそして北部地方では、「ジンガ」(壞血病の一種)に冒されて手足はむくれ上り齒は脫落してゐると云つてゐる。所が面白い事には、ロシアでは「共産主義者」と稱するものも投獄されてゐる相だ。無政府主義者は「無政府主義」のために投獄されてゐると主張するなら、これら「共産主義者」は「共産主義」のために投獄されたことになる。世の中に之ほど滑稽な話はあるまい。ロシアでは「共産主義」とは何を意味するものだ? 恐らく兩者とも、竊盜、詐欺、殺人又は反革命運動のために投獄されたものだと見るより外はない。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

地方欄

秋田通信

其の後の紛擾が大變なんです。家族制度に對する彼等の脅威は、全く民衆の感を嚇ひ、全く何も知らぬ人々でさへ、家宅搜索に對する、野口某に對する、種まく人に對する同情が彼等の自覺をうながしたのです。[illegible]と嘲笑がわきおこつてゐる次第です。――聞えます、ごこでも、もう意識してやつてゐるんです。

三月十五日の雪あかるみに五城目から來た七人の黑い人影が一日市に殺倒したのを見ました。土崎で三四軒やつた餘勢が……のびたんです。全く人權蹂躙です！　土崎では『人殺しがあるんです？』と不安なみじめな人々が立さどまつて、おどおどしたものです。正直な民衆を、まア彼等はどこまで御し易いと思つてゐるのでせう。病床の妻の枕元にふみこんだり、愚にもつかぬ手紙をほぢくりまはすに切り文句をならべ、ごこからどう廻つてきたか知れない、禁止かごうか知らぬ「種蒔く人」を搔き集めて、ね。彼等が宣傳をするんです。

內容を見ろ！　ごこが惡いんだい。色盲：とある男が床屋で吹鳴つたのは確かです。警察に對して絕望した民衆は何を賴りにすればいゝのでせう！　黃色の分子が死滅し、確かなものが成長しつゝあることは確です。

五城目はどこの家か判然しません。多分敎門でしたらう。一日市のMHやSHが氣の毒です。MHの主人は起され、裏の秣小屋まで彼等の手に渡した無念の心持は察せられますSHの家も、家ことごとくが家族の面前にさらけ出されたのです。――赤の他人に、しかも何の理由なしに。鷹の巢もひどかつた。然かもまだ搜索の手がやまないと聞く。僕等何等この件に關係のない、初めて種蒔く人を知つたものでも憤然としますよ。

――貴樣達に食はせてもらつてゐるのか！赤兒あつかひにしてやがらア！　ごつと笑つたが、湯氣の中に眞面目な老いた目が光つてゐたのも記憶してゐます、中々物騷な世の中になりました、サーベルが氣になるつてことは何時の時代にもありませんね、――うなづけます、主義者達の狂氣に近い行動も初めて僕らに强くきます。――野口某も氣の毒ですまた、秋田は寒いんです、それに病身だ相で犧牲者です、惡制度の結果です。その惡制度を償ふために家宅搜索、種まく人に禍が及んだのです。彼等は彼等の胸に刄を刺してゐます。

現實に血嘔吐を吐いてゐる現制度の末期を身の錆と思はずに、破鍋にとぢ蓋式に、主義者を涸らし、いつまで羊の民衆に毒血をふりそゝぐのか！　[illegible]とんだ氣焰になつて失禮しました。鈍い、灰色の靴下のやうに垂れ下つた雲間から春がほの見えて來ます。水々しい星にむかつてさて唄でも唄はう。僕等はまだ若いんだ。春！春：…。

三月二十五日　（平一郎）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

名古屋から

荻野幽香

名古屋に放浪してから、もう一年半になる　その間仕事らしい仕事も、運動もせず平凡に時を消費して了つたが、燃ゆるやうなパッションだけは何時でもあるんだ。何か爲たい！

×

名古屋は平凡な、極端に物質的なイゴイストの都市だ。唯自分だけの狹い小さな殼の中にのみ生きやうとしてゐる。人類愛、共同愛社會愛に缺乏してゐる。しつかりした人物も機關もありやしない。――と云つて稀にあるコツ〱絶えざる勉强と研究と努力を續けてゐる隱れたる力をも、否定しやうとするのではない。

×

陸軍軍縮の犧牲となり、僅かな經費の爲軍樂隊が廢止された。俺はそれを惜いと思ふ。もう夏が訪れても公園の夜に、一つの希望と享樂とを失つて了つた。益々殺風景な都市となつて行く。――かうした氣持ちを單なるブルジョアの慾望だと排して呉れるな！お互ひに人間なんだから。――

×

廣小路の街路を歩いて或る書店で『種蒔く人』を始めて知つた。實際眞摯な努力と緊張した編輯振に惹きつけられた。文藝講演會に割に盛んな運動振を發揮して居られる。「ダントン」が上演禁止され、脚本朗讀として許可されたが、秋田雨雀氏は激昂したなぞと當地の新聞が何時か、報じてゐた。無理解な當局を憐れむ。

秋田雨雀氏と云へば、新宿の相馬女史の二階で、先生を中心として神近市子氏、佐々木孝丸氏、佐藤誠也氏、能島氏、そして私も末席を汚してゐた脚本朗讀會の頃を追想せずにはゐらない。――彼の不遇なエロシエンコさんの事も。――そしてくだらない今の自分の生活が恥かしい！

×

今度自分達の間でプロレタリアの藝術を標榜して「どん底」と云ふ雜誌を發行する計畫中だが、自分達の力は弱くとも貧しくとも何か爲ずにはゐられない衝動に奮へ立つてゐる。沈思のみが人間を偉大にするのぢやない。表現だそして戰鬪だ！

×

ゆがめる世界を正當に、不合理なる社會を眞に、そして自由と平等と愛との世界を建設する爲に努力を惜んではならないのだ！

陽の光り、空の蒼さよ
湧き出る
力を感じ、拳打ち振る。

×

兄弟よ！しつかりして呉れ！
わけもなく
ほろ酔ひし我の涙ぐましき。

（四月三日）

新しい敵の戰術

半月許り不在であつて、今夜歸宅。始めて『種蒔く人』四月號を手にし、『講演』は如何にと先づ頁を探る。

「種蒔き社第一回文藝講演會禁止さる」

亦ヤリヤガツタなア！畜生！

思はず左の一人語ちて、一通り其の全文に目を通ふす。その中から官憲の最近の戰術の一つを明瞭に掴む事が出來た。

外でもない。「禁止といふ大命が下つたのは開會間際でした」と云ふ事である。

何故其れが官憲の最近の戰術の一つだと見るかといふと、過般大阪で開催の豫定であつた「現代思潮講演會」の打つ毀し方が全て其の通りであつたからだ。

當時の事を今更詳論する必要もないであらうけれ共彼奴等の戰術を知る爲めに極く簡單

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に概畧を述べて見ると次の通りだ。
二月何日であつたかは、今記憶にはないが、第一日第二日を天王寺公會堂に、第三日を中央公會堂に開催の豫定で豫め當該當局の了解の下に準備に係り、少なからぬ費用（無産者てしては）と莫大なる時間を消費する事に依つて準備は完成した。確實な言致を取つて置いたので無論禁止の大命又は不許可と云ふが如き事はあり得ないと、彼奴等の言を信じて我等同志の者も蔭となり陽となりして運動に力を致した。愈々當日は來た。

當日の準備も全部（會場の内部を除外しては）完了した。會場へ行つて見ると會場は空けてあるが警察の許可證を持つて來るまでは門を開かない（世話人に對してさへも）と云ふ。無論會場費を受取らない。警察へ行つて見ると「内務省からの訓令に依つて許可する事は出來ない」と云ふ。

交渉に交渉を重ねて見たが彼等の事だから効果のありさうな筈がない。

時は刻々に迫つて開會時間に間近くなる。

無效とは知りつゝも、折角の來聽者に甚だ濟まないと思ふので、更に折衝を重ねると彼奴の曰く「強いて會を開くなら開閉いても好い、だが公園の入口に於て交通を遮斷する」と因に云ふ。公會堂は公園の中に在る。

斯くして第一第二の二日共流會となつた。其の間亦々折衝に折衝を重ねた結果、同志を悉く講師中より除外するとの條件付きにて、第三日だけ、即ち中央公會堂の分だけ許さる事となつた。

當日は來た。新陣要を整へて、朝から改めて運動を開始した。準備は成つた、所がどうした事だらう？

悉くの講師諸君が、其れ其れ異つた理由の下に始めの承諾を紙屑にした。

何故であつたらう？　後より糸を操つてゐた何者も果してなかつただらう？

斯くの如くにして、運動費の有りつたけを消費させ、其の上二回（第一日第三日）共熱心なる聽講諸君に無駄な御足勞を懸けたのだ。

大體は以上の通りだ、以上の概畧に依つて敵の戰畧の如何なる者であるかを知る事が出來るだらうと思ふが、何故彼奴等が斯うした戰畧を採るのだらうか？　其れは恁うだらう即ち許可をする様な顏をして、或ひは事實許可をして置いて、準備の完成した所で中止或は不許可を宣言する。左うすると必要なだけの費用は全部費消し盡して居り、其れを聽かんとした者、觀んとした者は皆無駄足を歩む結果は、同志は増々貧乏し、共鳴したり、不心得にも入場料と貴い時間とを潰して入場せんとせし者を、其の後、此の種の集合から一人でもより多く放逐し得るとの馬鹿けた確信の下に採る戰畧なんだらう。

だが世の中は、彼奴等の頭腦の様に、固定してはゐない。それは甚だ不都合かも知れないが、世の中は絶えず進化してゐる。

斯うした戰術を幾何猛烈に實行しても同志は運動を中止はしない。講演だつて止めやしない。來聽者諸君に與へる「禁止」からの印象が何んなものであるかは彼奴等には永久に理解りつこないのだらう。

哀れなる人形達よ！「種」は到る處に蒔かれつゝある。オ前達の戰畧か猛烈であればあるだけ、それだけ早く「種」は包皮を内部か自からの力に依つて破んだよ！

（大阪　窪田木實）

鈴賢さん　グウの音もありません。今後とも遠慮ないところを言つて下さい。僕らもシツカリやります。

逸平といふ人もその他の人も「讀賣」には居ません。僕らは常に同紙の厚意を謝してゐます。

責任者一同

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人欄

凡てに反く

港けい子

今時イプセンでもないぢやないかと言つて笑ふひとがあるか知れませんが、日本の女がほんとうに人形の家のノラを理解してゐるでせうか、また、男たち諸君もノラのほんたうの心持がわかつてゐるでせうか。

愚な女よ、男よ、夫婦よ、呪ひの火に燒かれて了へと私の心の底で叫びます。

性の科學的な研究にはまるきり無智である日本の女、セックスが人生のどんな位置にあるか、といふ疑問に對してさへ、盲目である日本の女、たゞ衝動のまゝにうごく日本の女――。

最初、男性を得た時に、セックスの滿足に溺れて、それを嘘の袖の下に包んで、衝動にばかり生きてゐて、さて男に裏切られたといつてはめそ／＼泣く日本の女――。笑つてやりたい。笑つてやりたい。唾をひつかけて笑つてやりたい。

「愛するといふことを、樂んでゐたぢやありませんか」

かう言つてノラは良人を責めました。

「乞食のやうに、その日暮しをしてゐたのです」からノラは言ひました。

「二十八年間、藝當をごらんに入れて生きてゐた」

からノラは悲痛な叫びを洩らしました。

不法な取扱ひは父から良人にうけつがれたとも言ひました。

私は日本の女を見る、人の妻となつた日本の女を見る、白粉を塗つた額を見る、首から垂れたながいショールのお化を見る。

それ等の一人／＼、それは誰でもみんな、男に依つて乞食のやうにその日暮しをしてゐないものがありますか。

男に藝當をごらんに入れないで生きてゐる女が一人でも居りますか。

また男でもさうです。

愛するといふことを樂んでゐない男は一人でも居りますか。

愛し合ふ事を樂しむ――夫婦はそれでいゝには違ひありませんが、今の男女の愛し合ふことは、衝動の結合より一歩も出てゐません性の玩弄より一歩も出てゐません。夢の國では、愛するといふことを樂しむだけで、すまされるかも知れません。現實ではそれが適用しません。愛するといふことを樂しむ心理は、奴隷を要求してゐることです。

現代の日本は、未だに男が奴隷を要求し、女は奴隷を光榮としてゐます。

それはつまり、衝動以上に自覺しないからです。

女はセックスから徹頭徹尾脱却が出來ない

それは一面の事實ですが同時にまた、理智の用意は、セックスを乘り越える可能がありますが、私は女性を否定して學者になれといふのではありません。

つまり、人間的自覺――の水準を男と同じ程度にすゝめてくれることをのぞむのです。

女は女であるといふ概念にこだわつてゐてはいけません。女も人間であるといふ、意識に眼醒めなければいけません。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そして男と歩調を同じくして生きてゆくといふ自覺が必然的なものでなければなりません。それは表面的な權利の要求となつてあらはるべきではありません。自己の生命が根本的に要求してゐるのは何か、すなはち奴隷の境地からの解放であることに氣がつかなければなりません。私のいふ解放とは、世の中の根本的罪惡であるところの、資本制度に反抗し、資本制度から脱却しやうとする、必然的な自覺を言ふのであります。此の境地の自覺に到達してこそ、衝動にうごいてゐた女が人間としてうごくことになるのです。

その自覺に立つた男が、愛を感ずる時こそその自覺に立つた男女が、性の抱滿に解放されてこそ、人形の衣を脱いだ、眞實な生活が創まるのです。

ノラが良人に、最後まで奇蹟のあらはれをのぞんでゐた。一つの心持ではその奇蹟があらはれないことを知つて覺悟してゐた。つひに奇蹟はあらはれなかつた。ノラは人形の家を飛び出した。

女は、すべての女は、此の奇蹟を、魂の絶叫として、のぞんでゐます。また、すべての男は、女に對して、奇蹟のあらはれを、魂の絶叫として、のぞんでゐることは事實なのです。そして世の中は不斷に空隙と寂寥を抱いた男女で滿たされてゐますけれども、奇蹟のあらはれは、ノラが良人の家を飛び出したばかりでは駄目です。

奇蹟のあらはれは、人間各自の心のなかに革命の嵐が吹き起ることです。

奇蹟のあらはれに光明を發見した私は、先づ自分たちの仲間であるところの女に反き、また男にも反き、新に生れた出發點に立つて世の中の一切に、反かうとするものであります。

かうした私の思想から、私の火のやうな一面と、氷のやうな孤獨な一面を發見してくれる男こそ、現實の世に見出す、せめてもの仲間としなければなりません。いや、仲間ではありません。兄弟です、かうした兄弟を世界的に求めます。

先づ手近なところから、私の孤獨を發見してくれる兄弟が出てくれることを願ふ。

私は、あらゆる祝福の言葉に代へて、自分の性の全部を捧げます。

選ばれたる私の愛人よ。一刻も早く私の眼の前にあらはれて下さい。

僕達は思想の行商人である

教員諸君に告ぐ

街頭の宣傳者である

東京市外瀧野川字中里
一三四川合方

行商人聯盟

リフレット 一部五錢

僕たちは本當の社會を建設

民衆に告ぐ

するものは現在では勞働者と農民しかないと信ずる

秋田縣土崎港町

秋田勞農社

リフレット 一部五錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生活欄

三等局員の日記

東北 赤河運堂

×年×月××日

思へば仙臺の養成所を出てから五年になる。よく辛棒の出來たこと、自分で驚く。一體あの業慾の局長いくら搾つてるだらう。事務員定員六人のところへ四人、集配人八人へ五人だけなら指定平均給料だけでも事務員二人分四十四圓、集配人三人分六十圓、奴さん百圓以上浮せてる譯だ。昨日監察官に俺が突込んだ時の局長の答辯の小面惡くさ「自費では事務員平均給料二十五圓、集配人二十二圓になつて居ます。」だつて、それなら結局給料ばかりで八十二圓搾つてるぢやないか。

監察官の答辯ば又自分の掘つた穴へ陷つたものだ。

「三等局は名譽職としての地方資産家たる局長の受負であるから必すしも定員を使役するの要はない。諸君の如く敏腕なる事務員を使役すれば五人のところを三人にて成績を擧げる事は局長の敏腕である』と、あゝ「名譽職の敏腕が恐いて。

×月××日

S局のT君から電話があつた「一年一回の事務員會議になぜ來なかつた」といふから『藝者の踊も見たいが、ウヌの局長は三圓の會費と一圓の旅費を出すより二圓の罰金を出したが得だといつたよ」と白狀したらT君の憤慨たらない。『本會議は事務の研究であつて經費に關する言は一切罷りならぬ規定になつて居ます』といやに濟した馬鹿原書記の面と悲憤家のT君の顏が見たかつた。俺達はどこで不平を洩していゝんだ。畜生——。

××月××日

今日は夜勤か、厭だ〳〵、今夜こそ眠らずに一等局の奴等の裏をかいてやるぞ、此間の主事に文句つけたのを恨みに思つてるから一時から二時頃電報をうんと溜めてやつてつゞざまにムシ(電報延滯)をつける積りで居やがるだらう。一等局の勝手にはほんとに腹が立つ自分の方の都合の惡い時は幾時間も送信しないで三等局が寢入つてる頃を見計つて意地惡く打つて來やがる。四十分と遲れると直ぐ報告しやがる。僕達は仲間同志でどうして斯う反目しなければならぬだらう。機械になれ切れぬ人間の淺墓な反目だ。『世間の奴等が安々と眠つてる此眞夜中に僕等生活に何等干係のない電報一本の爲め共通の苦痛に泣く僕達がいがみ合ふことは何といふ事だ。同業諸君——諸君は人間として目覺たなら僕達の反抗の目標がとこにあるか、僕達の反目する焦燥の源がどこにあるかが直ぐ解る事だ。其時こそ僕達は淺墓な反目を止めて我々の目標に向つて反逆の熱情を燃やさうぢやないか』慿う今夜はいつてやらう。

米相場の電報なんかは留吉を抛つて迄たゝき起して眞夜中配達させる必要はない。誰れが好んで小作人の生血を吸つてる奸策のお爲ごかしにするものか、それだのに——自分に都合のいゝ電報は少し遲れても文句をいふし都合の惡い電報だと起したとて偉い權幕だ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

留吉が泣いて來た時は、ほんとうに飛び込んでぶん抛らうかと思つた。

××月××日

郵便局は『叮の目』であると僕はいつでも自認して居るが、僕達の目からは叮の狀態がよく解る。

僕達は何のことない商人や資產家の奉公して居るに過ぎない。區分棚の前に立つてよく淚ぐんだものだ。宛名の不明瞭なたど／＼と書く葉書に限つて、最も人生の重大な暗黑面を表はして居る。明快な要領の得てる丈け悉く僕達の生活に不用な商業上のものばかり。資本主義がどれ程發展して行つてるかは、每日取扱ふ物數で解る。あの葉書の文句はいつかの參考に書き付けて置かう。

『姉チヤンおとぎの——一日うなつて死だオカア電報カケテもらエといつたからゆうびん局に行つたら錢はカサレないからはがきを出したがいといつた。オカアは泣いてばかり居るからすぐ來てクダサイ錢は一文もないから主人からカリて來て下さい』

石やの親父が長患ひで死んだのは知つて居た。錢は一文も殘らぬことを知り拔いて居乍らなぜ電報を吳れてやらなかつたか、悔んでも追付がない。あの葉書一枚が書く兒にも讀む人にもどれ程の悲みと驚きを引起すかを思ふと、自分が每日無神に爲しつゝある仕事がいかに重大だかを感ぜられる。世が逆ならばだ。さう思つて來ると資本家や商人の機械にされてることが心外だ。腹が立つ。

機械になるか人間になるか。敵になるか走狗になるか。決然と腹を決めて行かなければ今の苦悶から遁れることが出來ない。

××月××日

今井君が今日爲替の日報締切で現金十圓不足した。滅多にない事務局長が局へ來たから願つたら「自辨しろ」といふどんなに願つても「將來の爲め」といつて聞き入れない。××市へ行つて藝妓を買ふ金や、選擧費ならいくら出しても將來の爲になるし搾り取る金なら一文減つても將來の爲めにならぬのだらう。

××月××日

目蓋のけいれんは四年も續く持病だが——何とか治す方法はないかしら、考へて見ると平均五六時間しか眠つて居ない。それも切れ／＼だから猶いけない。近頃は神經がいやに焦々して頭の半分が痛い。一晩でいゝ眠れる丈け眠つて見たい。そして一日讀書したいなあゝ厭だ／＼、一體局長はいつ增員する氣なんだらうな。これぢや死んで仕舞ふぞ。

惡いと思ひ乍らも折角讀みかけてる窓口へ手數の掛かりさうな客が來るとついむら／＼となる、窓口で本を讀むのはこれから止めやう。一週間で假病で休んだらどんなに氣樂だらう。

婦人運動者の近感

細井和喜藏

おらあの眼から觀ると、婦人運動は大分近眼だんべえと思ふ。當の婦人運動者でねえおらあには、「婦人運動」つたつてどぎやあなことをするのかよく解んねえが、ちよこちよこ人の話きけば、「婦人參政權」「婦人の覺醒」と云つたような詰まり、社會的にオナゴか男子と等じやうに成らうとする運動だと考えて大けい間違ひは無かんべい。

おらあは何も、オナゴがそぎやあに成らうとするのが、どうのこうのと云ふのでねえがそれが一般婦人に對してとなえられる言葉でなく、ブルの嬶あ許りに造られた言葉であり問題のやうだから、あらあには合點がいかねえんだ。早い話が手前の腰卷まで他人に洗濯させてる子一人育てるだなし、[illegible]自由なんか與えなくてもよかんべえや。些と惡云ひ過ぎたかしらんが、道理は斯うだ。

成る程婦人が男子に隷屬せにやならんちう

ことは、苦痛かしらん。それが眞理に反した不合理な現象かしらん。けれごもゃなあ、プロのおらあでも「小の虫殺して大の虫助ける」ちうことが、解つとるで。玆に千人と五百人と身投げするオナゴがあるとして、双方とも助け度いがさうは問屋で卸さねえ、といつた場合、おらあは當然五百人の方を捨てゝ千人のオナゴを助げなあ。

些とぐらい眼醒めたブルの嚊には、そりや今の制度が惡くて辛いだらう、けれごもそんなオナゴは小數やで——而もその手合は遊んどつて仕事も何もしくさらんと、白粉許りつけて大けな面しとる奴だ。そんなオナゴ等はオヤヂのお世話にらなかつたら、よう食つてゆけしねえで、之を解放して一體どこへ待つて行く積りだんべえ。

婦人解放——チャンチャラ笑可しいや。解放せられて反つて困りはしねえかえ?

ところが玆に大けな問題がある。ブルの嚊と違つてオナゴの細腕でもつて、自活しとる偉い婦人かある。而もブルの嚊どころのさわぎでなく、素晴らして大勢居る。日本に勞働婦人が五百萬以上居るんだんべえ。そのうちでも一等考えにやならのは「女工」だ。日本の紡績工場には四百萬以上五百萬近くの女工が沖ゝブルの嚊らが一日やつたつて死んで了ふやうな生活しとるだんべえ。全く「悲慘を越えた」想像もつかぬ世界があるのだ。

五百萬の五工が檻のなかへ入れられて、鐵の鎖で繋がれ、金棒で叩かれつゝもブルの嚊らの贅澤道具を造らねばならんのと、遊んで可愛がつで食はせて貰へるオトコに從つて居るのと、どつちが人として忍び易いことだんべえ。

婦人運動者にはこの大けな矛盾か分らぬらしい。大分おらあの眼よりも近いな。あんまり學問した勢だんべえ。

——一〇年四月四日

或る紡績工の談話その儘——

銀座にて

淳公

この頃の若い女は、魂までもくさつてゐる。一度銀座へ出てみ玉へ、輕佻、浮薄、墮落、傲慢——いかなる言葉も追つつかない。あまりに貧乏人へみせつけてる。

ブルジョアを葬る。特權階級を否定するのが、それより以前に、私は今の若い女の、あらゆる多數をやつつける否々全部を、まづ葬れと宣言する。腐つた女を——われらの地上から追出したい。

「シムーン」創刊號と「無産階級」の創刊號

前者は文藝、後者は社會主義評論雜誌、「明日」を期待する無産者は何人も必讀しなければならぬものである。

銀座をぶらついて雜誌「人問」の投賣を見た時「シムーン」精氣ある誕生を心から祝さずに居られなかつた。

と同時に「無産階級」會津九郎の巻頭論文は精神的社會主義を寒からしめたる清涼劑であつた。

聳人欄

勞働祭…少年少女對話…

少女――いろんな勞働團體が集まつてメーデーの示威運動をするのは、どう云ふ意味なんでせう？

少年――それや、「自由の日」の先ぶれですよ。

少女――なぜでせう？ 勞働者は自由ぢやないんですの？

少年――勞働者はそう思つてますよ。そう敎へられてゐるんです。そして子供の樣な單純さで、そう信じてゐるんですよ。

少女――デモ、勞働者は好きな事は何でも出來るんぢやないの？

少年――エヽ、お上を傷なはない限りではね。傷つたら最後、牢にぶちこまれたり射殺されたりしますよ。

少女――じや、勞働者と云ふのは奴隷な譯ですね。

少年――よく氣が付きましたね。

少友――メーデは何時頃からあつたんです？

少年――今年で三十三年目です。

少女――勞働者は矢張り前と同じ事ですの？

少年――大した違ひはありません。

少女――どうしてでせう？

少年――それにはいろんな譯がありますよ。ですが重な理由と云ふのは、勞働者は支配階級や宗教や、國家の下にあつて、凡ゆる社會的活動は勞働者を抑へ付けてゐるためです。

少女――これから先き、のぞみがありませうかしら？

少年――暫くありませんね。今の處、勞働者はひどくやつ付けられてゐますからね。

少女――ぢや、私達はどうすればいいんです？

少年――私達は、只勞働者はこれから眞個に目覺めてくれると云ふ希望を抱いて、進んでいくより仕樣がありませんよ。

少女――では妾もそうして進んでいきませう

少年――同士よ、握手しませう、そして二人で一緒に、私達はプロレタリアの信條を繰り返へしませう。

「私達の世界は、私達だけの世界である」

講演會の中止について

鈴　賢

戀人にでも會ふ樣な心持で樂しみにして居た、講演會が中止になつた。當局の干涉など今更驚いたり憤慨しないほど免役になつて居る。僕達も同人連の不始末には秋田氏では無いが憤慨する、開會時の六時にお揃で、熱心な來會者に取卷れた中お婦人に挨拶しながらユル〳〵と禁止の掲示を書くなんて。人騷せなプロパカンダなら知らぬ事、九段茶寮で毎晩お稽古を勵んだ熱心で、モツト手廻しよく廻つて餘興なしで講演たけでも出來なかつたものか、あのダラシなさは當局の罪にばかりして置けない編輯や事務をおやりになる同名の賢三さんしつかり賴みますぜ。

横濱から呼寄せた人に申譯にこんなことを書

くそれにしても種蒔き社の消息を載せる讀賣紙の厚意には同志と共に心から愉快を感ずる「逸平氏かだれか同紙に居る様だが」

ダントンとタドン

友人二三と行つたところ「禁止！」八十八夜も近づく此の好委節に何故に種を蒔かせないのか？ 天の攝理に盲目な亂暴者にはほと〱立腹を通り超しますね。尤も「ダントン」の濁點の打ち方によつてはタンドン(炭團)と變化しますからね、タドンと云ふ奴は頗る單純な可愛い姿態と精神とを藏してゐますからね御健闘を祈る　（十六日）

懊ましき外景

京都　河村久雄

灰色の骸を乘せて電車が馳る。
低い屋根の立並ぶ間をたへまなく
灰色の骸をのせて馳けてゐる喧燥な機械—
生命を持つ骸！言葉を云ふ骸！
ガアーガアーと云ふ音と冷たい巨大な軀を持つ無生物！おゝ懊ましき外景よ！
低き倭屋の奥にも、高壯な構への奥にも、多かれ少かれこの種の骸は醒めいてゐる、話し合つてゐる。彼等の爲ず所、彼等の云ふ所の一切は全く虛僞と僞瞞に充ちてゐる。
それでも彼等は飽く事なしに、何時迄も、言葉が言へなくなる一瞬前迄その生活を續ける
おゝ神よ！ 若し汝が宇宙の一角にも存在ましますならば彼等の爲に嘆き給へ、涙流せよ！

×

おゝ無生物の行列よ！
なやましき十字街のまひる！
自働車—自轉車—電車—人間—
電柱—電線—煉瓦—道路—
喧燥—動作—
おゝましき外景よ！
彼等は何處を目當に歩み居るにや、將た何を思ひて、何を語して——彼等は何處に行かうとするのもあるか！
何とて人類はかゝる現實を過去より持ち來つたのであるか！
懊ましき人類の歷史よ！行程よ！
彼等はかゝる狀態を猶も未來に經續せんとするのであるか！
彼等の內若し唯一人にして目醒たる者ありせば人類はせめても幸福である。
實にやニイチエの如き人を出せしは、人類にとりてこの上なき幸福と云ひたし。
街に歩む者よ！電車の上なる人間共よ！
自動車の中なる紳士淑女諸君よ！
汝ぢらに先づ金を儲けんとする前に、酒を飲む前に、女性と戯れる前に、吾等人類の歷史を飾りし偉大なる超人！「ニイチエ」の名を呼ぶべきである。

×

人類よ！今こそ目醒めなければならない！
いつ迄睡眠を食ぼるべきではない。
いつ迄鈍感であるべきではない。
今若し人類が過去の行趾に甘んぜんか——それは明かに人類の破滅を意味する。
今や人類は穢れたる過去の衣を脫ぎ捨てゝ永永苦惱を續けたる自我の魂を現實に救ふべきで
現實に絕へ間無き流れであるが故に、人類がなした一切は凡て再び歸らざる過去の事實として吾等人類の歷史に止り。
人類のたへざる生命の進化は、且て適合したる社會との矛盾を改めずにはおかない。
今こそ其日が到着したのではなからうか—
正しき制裁は今彼等の上に加へられんとしてゐる。！
人類よ！醒めよ！ 反省せよ！ 自我に歸れ！
見よ！ 新らしき世界は吾等の幸福を待ちて現實の彼方に實現せんとしつゝあるではないか！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もまた　とす子

だん／＼面白くなつて來ました。これからです。講演會もまたやられたさうで殘念すね。嘸みなさんが憤つてるでせう、壓迫も甚しいものですね。今日から秋田朝日へ小牧さんの「過激主義とは何ぞや」が轉載されて出ました。面白いと思ふて讀みました。みなさんの努力のほど御推察して拜んで居ます。

寢た子が起きた　秋田國雄生

縣内方々で家宅捜索があつたとかで、村の若衆が大評判です。種蒔く人を見たい人が急に增えました。四月號を「飛びゆく種子」出來次第どん／＼飛ばして下さい。寢た兒を起したとはこのことでせう。

蒔く人蒔けぬ人　蒼さめた東北の勞働者

暫く種蒔く人の一月號を待つたけれど、つい來なかつた。そして貳月號のみが來た。フト表紙にからまる革命色の紙片を見た時。「またか――」と直に悲憤の念に激昂せざるを得なかつた。そして何物かを憎まずに居られなかつた。あゝ困つたものだ。どうしたと云ふのだ。またやられたとは種蒔く人にとつてこれ以上の苦痛と悲哀はないだらう。種蒔く人は多くの人間にとつて最も有益なそして〇〇〇〇〇〇〇〇〇で仲よく生活するより仕方がない。いくら懸命になつて色々の方法と苦心をしてまいてもどうもいたづらして仕方がない。

そして軍閥とか官閥とか司法閥が一層巧妙なそして一層陰險な腕曲な手段と方法とを以てやつてくるのには種蒔く人も少なからず手揩つて居る。けれども決して種蒔事は止まない奴等が色々の方法と手段で阻止すれば阻止する程、惡戯すればする程、蒔く人も更に巧妙な更に陰險な方法と苦心と鬪を以つて多くの人の爲に幸福と歡喜に滿ちた種を蒔かうと努力してるのだ。そして行く所までは行く、力の限りやる所まではやる。倒れるまでは闘ふ。併してそんな横暴と迫害と壓制の下にたゆまず倒るゝまでは止まざる意氣を以て働き續けて居る。種蒔き續けるのだ。唯恐るゝものは利巧の馬鹿な狐や狸。無能な無智な無鐵砲な官閥と軍閥と司法閥より外にない。種蒔く人は何時までそんな愚弄な無智な無鐵砲な者と闘はなければならないだらう。そうだ横暴と壓制とは闘ふのが種蒔く人の唯一の苦しみなんだ。而しそれを突破して幸福と歡喜と希望に滿ちた光明を見え出す事が出來得る事を信じて居る。今また蒔く人が蒔けぬ人となつたのを悲しむのだ。而して種蒔く人は大人しい。蒔く事を禁じられた場合も大人らしく沈默する。けど其の沈默の中には深刻な、そして力強い何者かが潜んで居る事を知り給へ。聞け！利巧の馬鹿な狐よ！狸よ！

空想の空想　美錄石

一攫千金！空想の空想！文壇に出る。オカシイや懸賞小說に當選した。三千圓もらつた。初夢かい。おめでたう、今年も相變らず貧乏かい。はつはつはあつは――は――あせればあせるほど壷の中へすべり込む生れつき貧乏の壷に住む君たちね。それに生意氣だよ立志傳中の人にもなれぬくせに大望を起してさ中途半端で子供をでかし酒をのんだり煙草をすつたり

やりやがつたな

顔も頭も手も足も身體中全體を埃に打付け乍ら飛ぶ様にして行った。いつもの様にガチャ〳〵ブラ下げたのがゐるだらうと斯待して。ヒッソリとしてゐた。小さな紙片に「講演會は禁止さる」と。チエッ。やりやがつたなあ。それでも、モウ一遍奥の方をのぞき込んで見た。ヤッパリ暗い。張りつめた氣も一時にゆるんで、わけもなく笑つてやりたくなつた。同じ様に五六人來た。何れも失望を面に表して歸り行く。

ペッとつばを吐き出してモウ一度振りかへつて見た。犬奴ッ。

我等の敵は人間だ

金澤にて　清水一々生

今日もまた、
おいらを惱ます朝がきた。
疲れた身體を、
むりに起き、
笛の鳴るのを氣付かひつ、
飯を喰ふのも悲しいよ。

×

あゝ今日もまた、
僅かのパンを得んがため、
油のついた、汚ない青い服。
寒い朝風に吹かれながら。

×

おいらは、斯んなに絞られて、
末は首まで切られるは。
何うして何時まで屈せよう。
眞赤な燃ゆる様な血が、
毎日おいらの胸にある。
毎日復讐を忘れない。
おいらの敵は人間だ。

不安心な國土

（一九二二、三、二七）　S H

（略）扨て小生は別段に家宅搜索を受くるが如き理由並に原因は無く、全く人權を蹂躪せられたるものと存候、然れど事司法に屬するものなるが故に、少しも反抗的態度には出でず、只だ泣き〳〵自己の不德を責むるの外途とて無之ものとあきらめ居り候、併し小生は思想問題に付官權に疑はるゝが如き行爲は些少も無之ものと自信し居るものなるが、何等的確なる證左もなく、只一種の「疑ひ」といふことにてあのやうなる侮辱を受け、祖先のあらゆる書類まで掻き散らされたるなどは、實に言語同斷と被存候、若し政治問題など加味せられ政府反對の行爲あるか故に、危險人物とあらば、小生だけは「滑稽なる司法」もある哉と一笑するのみに御座候。然れども小生の如く「政治問題に關連あるが故に」位にて國民續々家宅搜索を受くるが如き者有之候ては日本といふ國土には安心して衣食住せられぬ事と存じ居り候、兎に角、發信人の不明なる「種蒔く人」の新年號だけ判檢事が貸してくれと持參仕りしのみにて、その他何等小生は責を受くべき事無きやうに思はれ候先づは一言返信申上候

主義者を作る人々

大阪　秋山武男

大阪に一人の車夫が居る。若い男だ。近所の人等は彼の事を「可哀相に」と噂し、或青年連からは「元氣のよい男」と云はれて居る。處が腰に洋劍ブラ下げるエライ御方は彼の事を「恥知らず」と嘲笑し、近頃は又「不都合な奴」と睨むで御座る。

此の車夫は昨年まだ秋虫か凋落を唄つて居た頃郷里（鳥取）から大阪に出て來、當時謹眞な青年であつた彼はエライ巡査サンにならうと志願した。そして受驗の結果は體格檢査にも學術試驗にも一番で合格したのに、彼は巡査サンになれなかつた。

「調べて見ると、お前の兄は以前に犯罪を犯した事があるさうだが、そんな不屆者の弟を採用する事は斷じて出來ぬ」

その不採用の理由と云ふ有難いお言葉を係官部から聞かされた日、彼は一晩眠らずに考へた――兄が不都合したればこそ、弟たる自分は責任を感じて巡査になり社會の爲に充分盡さうとするのではないか――

彼には警部の言葉が解せなかつた、否如斯とした警部が「人民保護」をする社會其物が不可解な謎として彼の眼に映つた。

其後彼は此の不可解を知る爲に本を讀み。講演を聽き、そして深く〳〵考へた。パンを得る爲には汗を流して車を引いて居た。汗を流し、又讀む、聽く、考へる日の永く續いた今日の彼は、もう善良な青年ではなく――熱のある生きる事に眞劍な青年になつて居る

社會主義評論雜誌

無産階級

五月號内容

福田博士の階級鬪爭説

メーデーはお祭りか

社會主義への歴史的推移

關西勞働同盟大會

敷かぬ鐵道

苦痛聽取機關

無産階級獨裁（カメネフ）

ガンヂイ運動の重點

佛蘭西階級鬪爭（連載）（マルクス）

一部金三十錢稅一錢

東京市外代々幡町幡ケ谷四〇

無産階級社

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會主義文藝雜誌

熱風

（シムーン改題）

五月號目次（定價三十五錢稅一錢）

階級意識の藝術（評論）……津田光造
吉田紘二郎論（評論）……川崎春二
ガンヂよ（詩）……松本淳三
暗い海（小說）……佐野袈裟美
豫覺（小說）……井東憲
洋刀の響（小說）……吉田金重
平和博を見おろして（詩）……新島榮治
むちやらかんの吠え聲（感想）……内藤辰雄
背教者の心理（評論）……山内房吉
「ノラ」と「馬鹿萬」（批評）……津田光造
武者小路氏の「人間について」を讀んで（感想）……柴田武福
藝術に於ける婦人の位置（紹介）……神近市子譯
批判と皮肉と抗議（時事評論）……佐野袈裟美

東京小石川區宮下町六九　シムーン社　振替東京五一五三二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會思想

第一卷 五月 第二號

米合衆國の奴隷制度（一）……石濱知行
露國デカブリスト研究（二）……嘉治隆一
ギルド社會主義の煩悶……新明正道
フエービアン協會と其の教育事業……佐々弘雄
エンゲルスの遺稿一つ……後藤信夫
海外解放運動消息……田中九一
……批評及紹介……
米田庄太郎著「經濟心理の研究」……蠟山政道
加田哲二著「國家學說と社會思想」……波多野鼎
露國社會運動曆、各國社會運動年表

定價 一部二十錢 郵稅五厘
發賣所 神田區表神保町二 五友社
（振替口座東京五二一八二）

社會思想社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

B (ブ b)	C (ツ ts)	Ĉ (チ ch)	D (ドゥ d)	F (フ f)	G (グ g)
Ĝ (ヂ dj)	H (… h)	Ĥ (クふ kh)	J (キ y)	Ĵ (ジ zh)	K (ク k)
L (ル° l)	M (ム m)	N (ヌ n)	P (プ p)	R (ル r)	S (ス s)
Ŝ (シ sh)	T (トゥ t)	Ŭ (ウ w)	V (ヴ v)	Z (ズ z)	

參 考

C = 英……Ca*ts* 獨……Ze*it*

Ĉ = 英……*ch*ur*ch* 獨……Deu*tsch* 佛……*tch*èque

Ĝ = 英……*j*oy 佛……*adj*udant

Ĥ = 獨……do*ch* 蘇……lo*ch*

J ≒ 獨……*j*a 英……*y*es 佛……*y*eux

Ĵ = 佛……*j*our 英……plea*s*ure

Ŝ = 英……*sh*all 佛……*ch*eval 獨……*Sch*iff

Ŭ = 英……ho*w* 獨……Ha*us*

§5) 揚音 (Akcento) は常に最後より二番目の綴(母音)に附す。

例 Miéno (様子) Gepátroj (兩親) Adi'aŭ (さらば) Piédo (足)
エーノー ゲパートゥロィ アディーアゥ ピエードー

【練習】 次ぎの各音を揚音に十分注意して高聲に音讀せよ。

A: nubo ヌーボー　dento デー(ヌ)トー　pagi パーギー
kokino コキーノー　knabo クナーボー　kuko クーコー
mano マーノー　pano パーノー　beko ベーコー
bani バーニー　boato ボアートー　peki ペーキー
tuta トゥーター　puni プーニー　nokto ノー(ク)トー
danki ダー(ヌ)キー　pugno プー(グ)ノー　dua ドゥーア
gento ゲー(ヌ)トー

B: monero モネーロー　birdo ビールドー　libro リーブロー
patro パートゥロー　rigardi リガールディー　longa ル°ォーンガー
oc エーツ　eĉ エーチュ　halo ハーロ°ー
faro ファーロー　floro フロ°ーロー　horo ホーロー

エスペラント講座

LECIONOJ DE LA LINGVO INTERNACIA

„ESPERANTO“

第一課　Leciono Unua

§ 1)　**發音の根本法則**

(1)　一字一音………綴りの通りに發音す。變音黙音無し。

(2)　一音一字………發音の通りに綴る。

§ 2)　**字母** (Alfabeto) と其讀み方。

A a あー Ā	B b ぼー Bō	C c つをー Cō	Ĉ ĉ ちょー Ĉō	D d どぅー Dō	E e えー E	F f ふをー Fō
G g ごー Gō	Ĝ ĝ ぢょー Ĝō	H h ほー Hō	Ĥ ĥ くほー Ĥō	I i いー I	J j よー Jō	Ĵ ĵ じょー Ĵō
K k こー Kō	L l ろ゜ー Lō	M m もー Mō	N n のー Nō	O o おー Ō	P p ぽー Pō	R r ろー Rō
S s そー Sō	Ŝ ŝ しょー Ŝo	T t とー Tō	U u うー Ū	Ŭ ŭ うを Ŭō	V v う゛をー Vō	Z z ぞー Zō

〔備考〕　Q, W, X, Y の四字はエス語には無し。

§ 3)　**母音** (Vokaloj)

あー	えー	いー	おー	うー
A	E	I	O	U

〔備考〕　J (キー) 及び Ŭ (ゥ) は母音に非ず。

§ 4)　**子音** (Konsonantoj)

批評　五月號

英國の新社會主義運動の研究（信用社會主義）　室伏高信

マハエフシュチナ ロシアに於ける智識階級の問題　片山伸

自由人の手帖

一、ロマン・ローランと共産主義（彼の態度の雄辯なる宣言）

二、シツルム運動（獨乙に於ける表現派の藝術運動）

三、無政府主義者の抗議（レーニン政府の思想家取締の實狀）

四、インタナショナルの新運動（歷史的大問題）

近世經濟の藝術的批評（ウイリアム、モリスの研究）　加田哲二

定價金參拾錢　半年壹圓七拾錢

批評社

芝區三田一ノ廿六　振替東京四五三四六

號外 トロッキー作「デクレエルの家族」(小說)

前號目次

インドと日本(題言)……

反動政府へ抗議す(社論)……

土地と自由(評論)……三和一男

青年指導者(小說)……津田光造

闇に生きる(小說)……松本淳三

その前夜(小說)……鳳逸平

彈き初め(小說)……松本弘二

人類苦(詩)……角園春之助

返逆の刻印(詩)……矢旗春二

嘘に就いての感想(感想)…金子洋文

吾等の要求する文藝(評論)…渡邊順三

過激法案に對する自己の立場(評論)……今野賢三

編輯後記

多忙であつた。實に多忙であつた。しかし何も彼もが成功した。雜誌のおくれて市場に出たのは申譯ない。が、それだけ白熱の奮鬪した。しかも外へは村松、平林、金子、佐々木の四人が大阪へ、京都へ、神戸へ、文藝講演の旅に出た。そしてどこでも成功した。種子は飛ぶ! 飛ぶ! またこれからもウンと飛ばしたいと思つてゐる。

それにメーデーが近づいた。烈しい力に合唱されてる一つのもの、それが本誌で躍動する。

しかも同時に、驚異の眼で見るべく價値ある、レオレ、トロツキーの創作が、「飛びゆく種子」の第二號としていよ〳〵出た。悪魔が勝つか? 我等が死ぬるか? 一つに一つだ! 前進だ? インターナショナル、それの力強い結果が、ます〳〵勇氣と堅固になる。

後ろをむくまい。前へ! 一途に! 來月は最後にさらに勇敢に奮鬪する。

最後に發人、地方欄、生活、婦人欄、それへの投書を益々待つ。

定價 一部四拾錢◇半年前金貳圓四拾錢◇一年前金四圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告 廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先 寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切 每月五日

大正十一年四月廿八日 印刷納本
大正十一年五月 一 日 發 行

東京市赤坂區檜町六番地
發行人編輯人 印刷人 近江谷駒

東京市芝區愛宕町三丁目一番地
印刷所 坂下文正堂

東京市京橋區弓町十六番地
發行所 種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌 東京堂 上田屋 北隆館 至誠堂 東海道

種蒔く人 第二年第二卷第八號 (大正十年十二月一日 第三種郵便物認可)
大正十一年四月二十八日印刷納本 大正十一年五月一日發行

本號四十錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種蒔く人 第二年第二巻第八號

（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）

大正十一年四月二十八日印刷納本
大正十一年五月一日發行

本號四十錢

號外　トロツキー作「デクレエルの家族」（小說）

前號目次

インドと日本（題言）……………………
反動政府へ抗議す（社論）……………………
土地と自由（評論）……………三和　一男
青年指導者（小說）……………津田　光造
闇に生きる（小說）……………松本　淳三
その前夜（小說）……………鳳　逸平
彈き初め（小說）……………松本　弘二
人類苦（詩）……………角園春之助
返逆の刻印（詩）……………矢旗　春二
嘘に就いての感想（感想）…金子　洋文
吾等の要求する文藝（評論）…渡邊順三
過激法案に對する自己の立場（評論）
……………今野　賢三

編輯後記

多忙であつた。實に多忙であつた。しかし何も彼もが成功した。雜誌のおくれて市場に出たのは申譯ない。が、それだけ白熱の奮鬪した。しかも外へは村松、平林、金子、佐々木の四人が大阪へ、京都へ、神戶へ、文藝講演の旅に出た。そしてどこでも成功した。種子は飛ぶ！　飛ぶ！　またこれからもウンと飛ばしたいと思つてゐる。

それにメーデーが近づいた。烈しい力に合唱されてる一つのもの、それが本誌で躍動する。

しかも同時に、驚異の眼で見るべく價値ある、レオレ、トロツキーの創作が、「飛びゆく種子」の第二號としていよ〳〵出た。惡魔が勝つか？　我等が死ぬるか？　一つに一つだ！　前進だ？インターナショナル、それの力強い結果が、ます〳〵勇氣と堅固になる。

後ろをむくまい。前へ！　一途に！

來月は最後にさらに勇敢に奮鬪する。

最後に聾人、地方欄、生活、婦人欄、それへの投書を益々待つ。

定價　一部四拾錢◇半年前金貳圓四拾錢◇一年前金四圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　毎月五日

大正十一年四月廿八日　印刷納本
大正十一年五月一日　發行

東京市赤坂區檜町六番地
發行人編輯人印刷人　近江谷駉

東京市芝區愛宕町三丁目一番地
印刷所　坂下文正堂

東京市京橋區弓町十六番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

種蒔く人　第二年第二卷第八號
（大正十年十二月一日第三種郵便物認可）
大正十一年四月二十八日印刷納本
大正十一年五月一日發行

本號四十錢

種蒔く人 第二年第二巻第八號 （大正十年十二月一日 第三種郵便物認可） 大正十一年四月二十八日印刷納本 大正十一年五月一日發行

本號四十錢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA